

令和 8 年度 さいたま市民意識調査

中 間 報 告 書

令和 8 年 8 月

さいたま市市長公室秘書広報部広聴課

目 次

I 調査概要

1	調査の目的	1
2	調査の項目	1
3	調査の設計	1
4	回収結果	1
5	調査実施機関	1
6	この中間報告書の見方	2

II 在住者意識調査 3

1	調査結果の要約	4
2	回答者の属性	5
3	調査の結果	7
	（1）地域での生活	7
	（2）さいたま市のイメージ	14
	（3）さいたま市みんなのアプリ	17
	（4）市政との関わり	19
	（5）市政への満足度・重視度	23
	（6）SDGs	25
	（7）今の地域を選んだ理由	27

III 在勤者意識調査 31

1	調査結果の要約	32
2	回答者の属性	33
3	調査の結果	35
	（1）さいたま市のイメージ	35
	（2）市内での活動	40

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、広聴事業の一環として、施策に対する市民の意向等を把握し、今後の市政運営の参考とすることを目的に行った。

2 調査の項目

(1) 在住者意識調査

- ① 地域での生活 ④ 市政との関わり ⑦ 今の地域を選んだ理由
- ② さいたま市のイメージ ⑤ 市政への満足度・重視度
- ③ さいたま市みんなのアプリ ⑥ S D G s

(2) 在勤者意識調査

- ① さいたま市のイメージ ② 市内での活動

3 調査の設計

(1) 在住者意識調査

- ① 調査地域：さいたま市全域
- ② 調査対象：さいたま市在住の満18歳以上の男女
- ③ 調査対象数：5,000人
- ④ 抽出法：住民基本台帳に基づく層化無作為抽出
- ⑤ 調査方法：郵送配布・郵送又はWEB回収
- ⑥ 調査期間：令和8年6月1日（月）～令和8年6月18日（木）

(2) 在勤者意識調査

- ① 調査地域：さいたま市全域の事業所
- ② 調査対象：さいたま市外からさいたま市内の事業所に通勤する満18歳以上の男女
- ③ 調査対象数：2,000人
- ④ 抽出法：市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
- ⑤ 調査方法：事業所へ郵送配布・郵送又はWEB回収
- ⑥ 調査期間：令和8年6月1日（月）～令和8年6月18日（木）

4 回収結果

(1) 在住者意識調査	有効回収数	2,338	有効回収率	46.8%
-------------	-------	-------	-------	-------

(2) 在勤者意識調査	有効回収数	671	有効回収率	33.6%
-------------	-------	-----	-------	-------

5 調査実施機関 株式会社 ケー・デー・シー

6 この中間報告書の見方

- (1) 図中に示した「n」とは、各設問の回答者数を示す。
- (2) 回答比率は、nを基数とした百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。
そのため、百分率の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 複数回答の質問では、百分率の合計は100.0%を超える。
- (4) 本結果は「さいたま市民意識調査」の調査結果の一部を簡潔に整理し、概要を示した。
詳細な分析や考察などは後日(令和8年12月予定)刊行する報告書に掲載する。
- (5) 作図の便宜上、一部の文字数が多い項目名や選択肢で、図中の表記においてかっこ内の文字を割愛したことがある。
- (6) 各調査の分析は、抽出調査で生じる数パーセントの誤差を考慮して記述した。

Ⅱ 在住者意識調査

1 調査結果の要約

（１）住みやすい人と、住み続けたい人は９割近く

今の地域が住みやすいと思う人（「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）（88.0％）と、今の地域に住み続けたい人（「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」の合計）（88.0％）は、９割近くであった。（参照：報告書 7～8 ページ・問 2、問 3）

（２）地域の満足度は「自然災害による被害の少なさ」が８割超え

地域の満足度（「満足」と「やや満足」の合計）は、「自然災害による被害の少なさ」が 81.9％で最も高く、「電車の便」（78.4％）、「周りの静けさ・清潔さ」（76.2％）、「ふだんの買い物の利便性」（75.3％）が続いた。（参照：報告書 12 ページ・問 6（１））

（３）「浦和のうなぎ」、「さいたまマラソン」、「岩槻の人形」の知名度が７割台

さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどの知名度は、「浦和のうなぎ」が 76.1％で最も高く、「さいたまマラソン」（76.0％）、「岩槻の人形」（73.4％）が続いた。

（参照：報告書 16 ページ・問 8）

（４）さいたま市みんなのアプリをダウンロードしている人は４割近く

スマートフォンアプリ「さいたま市みんなのアプリ」をダウンロードした人（「アプリをダウンロードしていて、デジタル地域通貨も利用している。」と「アプリをダウンロードしているが、デジタル地域通貨は利用していない。」の合計）（37.3％）は、４割近くとなった。

（参照：報告書 17 ページ・問 9）

（５）情報の入手方法は「市報さいたま」が７割

市の情報の入手方法としては、「市報さいたま」が 69.7％で最も高く、「自治会の回覧板・掲示板」（33.1％）、「ロクマル 市議会だよりさいたま」（29.3％）が続いた。

（参照：報告書 19 ページ・問 10）

（６）今後力を入れて取り組んでほしい事業は「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」が４割半ば

事業分野別のニーズは、「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」が 46.1％で最も高く、「高齢者福祉の充実」（45.2％）、「交通事故防止／防犯対策の推進」（40.8％）が続いた。

（参照：報告書 24 ページ・問 15）

（７）SDGsを知っていた人は９割近く

SDGsを知っていた人（「内容まで知っていた」と「SDGsという言葉聞いたことがあった、または、ロゴを見たことがあった」の合計）（88.4％）は、９割近くであった。

（参照：報告書 25 ページ・問 16）

2 回答者の属性

性別、年代、居住区については、さいたま市の人口（令和8年5月1日現在の18歳以上人口）と対比を行った。

（1）性別

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
男 性	1,052	45.0%	49.2%
女 性	1,228	52.5	50.8
選べない・答えたくない	36	1.5	
無回答	22	0.9	
全 体	2,338	100.0	100.0

（2）年代

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
18～19歳	25	1.1%	2.2%
20代	204	8.7	13.6
30代	299	12.8	14.9
40代	395	16.9	16.2
50代	517	22.1	18.5
60代	419	17.9	12.9
70歳以上	457	19.5	21.7
無回答	22	0.9	
全 体	2,338	100.0	100.0

（3）居住区

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
西 区	142	6.1%	7.0%
北 区	274	11.7	11.3
大宮区	238	10.2	9.5
見沼区	266	11.4	12.3
中央区	171	7.3	7.7
桜 区	154	6.6	7.3
浦和区	306	13.1	12.4
南 区	344	14.7	14.4
緑 区	228	9.8	9.7
岩槻区	193	8.3	8.4
無回答	22	0.9	
全 体	2,338	100.0	

（4）主な移動手段（複数回答）

属 性	回答者数	比率
徒 歩	1,244	53.2%
自転車	990	42.3
自家用車	1,156	49.4
バイク	69	3.0
電 車	1,299	55.6
バ ス	573	24.5
タクシー	90	3.8
その他	11	0.5
無回答	24	1.0

（5）職業

属 性	回答者数	比率
自営業主・家業手伝い	158	6.8%
勤め人(正規職員・正社員)	976	41.7
勤め人(パート・アルバイトなど)	418	17.9
学 生	56	2.4
専業主婦・専業主夫	318	13.6
無職	318	13.6
その他	51	2.2
無回答	43	1.8
全 体	2,338	100.0

（5－1）勤務先・通学先

属 性	回答者数	比率
さいたま市内	711	44.2%
さいたま市以外の埼玉県内	274	17.0
東京都23区	498	31.0
その他の東京都	26	1.6
その他の道府県	70	4.4
無回答	29	1.8
有職者・学生全体	1,608	100.0

（5－2）通勤・通学時間

属 性	回答者数	比率
30分未満	615	38.2%
30分～1時間未満	465	28.9
1時間～1時間半未満	386	24.0
1時間半～2時間未満	101	6.3
2時間以上	20	1.2
無回答	21	1.3
有職者・学生全体	1,608	100.0

(6) 同居している家族構成

属 性	回答者数	比率
一人暮らし	268	11.5%
夫婦だけ	615	26.3
親子（2世代）	1,212	51.8
親と子と孫（3世代）	100	4.3
その他	102	4.4
無回答	41	1.8
全 体	2,338	100.0

(7) 子どもの有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,496	64.0%
いない	735	31.4
無回答	107	4.6
全 体	2,338	100.0

(7-1) 子どもの年代（複数回答）

属 性	回答者数	比率
小学校入学前（0～6歳）	219	14.6%
小学生・中学生	340	22.7
高校生・大学生・大学院生・ 短大生・専門学校生	283	18.9
学校教育終了	666	44.5
その他	222	14.8
無回答	15	1.0

(8) 65歳以上の家族の有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,153	49.3%
いない	1,144	48.9
無回答	41	1.8
全 体	2,338	100.0

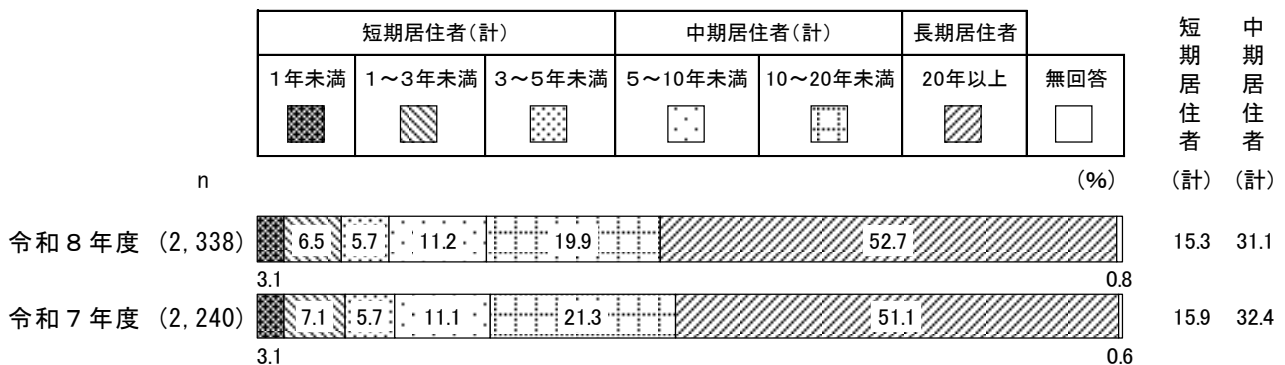
(9) 居住形態

属 性	回答者数	比率
持ち家の一戸建て	1,234	52.8%
持ち家の集合住宅	518	22.2
社宅、公務員住宅など	30	1.3
民間の借家(一戸建て、集合住宅)	442	18.9
公営の借家(UR、市・県営住宅など)	61	2.6
その他	15	0.6
無回答	38	1.6
全 体	2,338	100.0

3 調査の結果

(1) 地域での生活

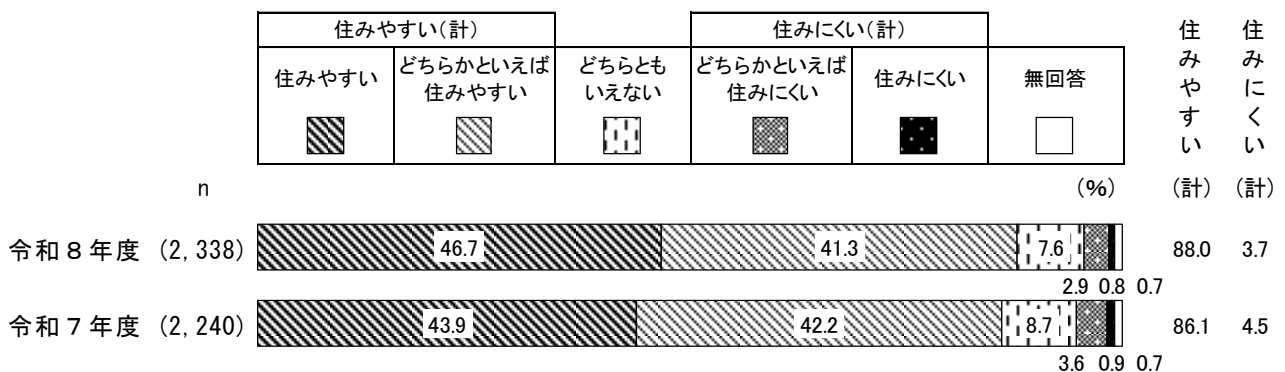
問1 あなたは、現在の「地域」にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)



「1年未満」(3.1%)、「1～3年未満」(6.5%)、「3～5年未満」(5.7%)を合わせた『短期居住者(計)』(15.3%)は、1割半ばであった。また、「5～10年未満」(11.2%)と「10～20年未満」(19.9%)を合わせた『中期居住者(計)』(31.1%)は、3割を超えた。「20年以上」の『長期居住者』(52.7%)は、5割を超えた。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

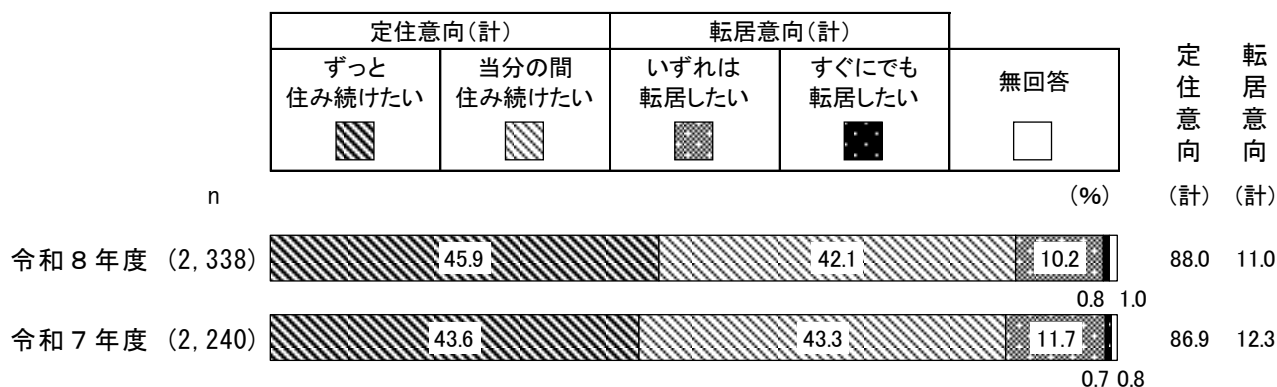
問2 あなたがお住まいの「地域」の住み心地はどうか。(○は1つ)



「住みやすい」(46.7%)と「どちらかといえば住みやすい」(41.3%)を合わせた『住みやすい(計)』(88.0%)は、9割近くであった。一方、「どちらかといえば住みにくい」(2.9%)と「住みにくい」(0.8%)を合わせた『住みにくい(計)』(3.7%)は、1割未満であった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問3 あなたは、現在お住まいの「地域」にこれからも住みたいと思いますか。(○は1つ)

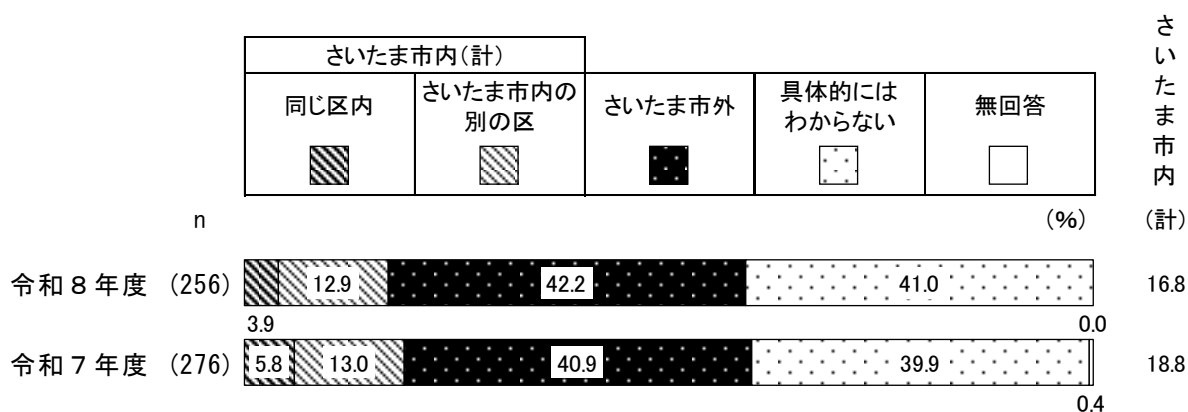


「ずっと住みたい」(45.9%)と「当分の間住みたい」(42.1%)を合わせた『定住意向(計)』(88.0%)は、9割近くであった。一方、「いずれは転居したい」(10.2%)と「すぐにでも転居したい」(0.8%)を合わせた『転居意向(計)』(11.0%)は、1割を超えた。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(問3で「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」と答えた方に)

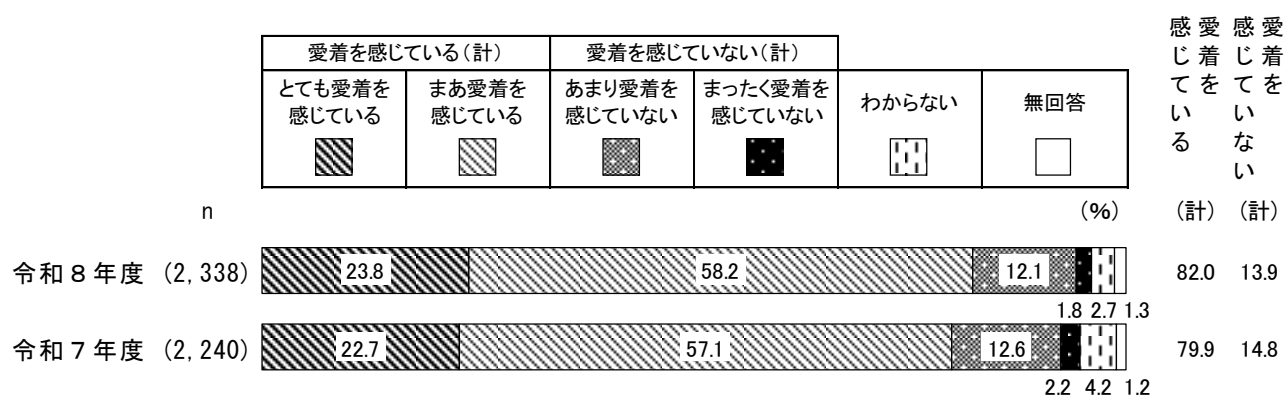
問3-1 どこに転居したいと思いますか。(○は1つ)



「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」と答えた人の、希望する転居先は、「さいたま市外」が42.2%で、「同じ区内」(3.9%)と「さいたま市内の別の区」(12.9%)を合わせた『さいたま市内(計)』(16.8%)を上回った。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問4 あなたは、現在お住まいの「地域」に愛着を感じていますか。(○は1つ)

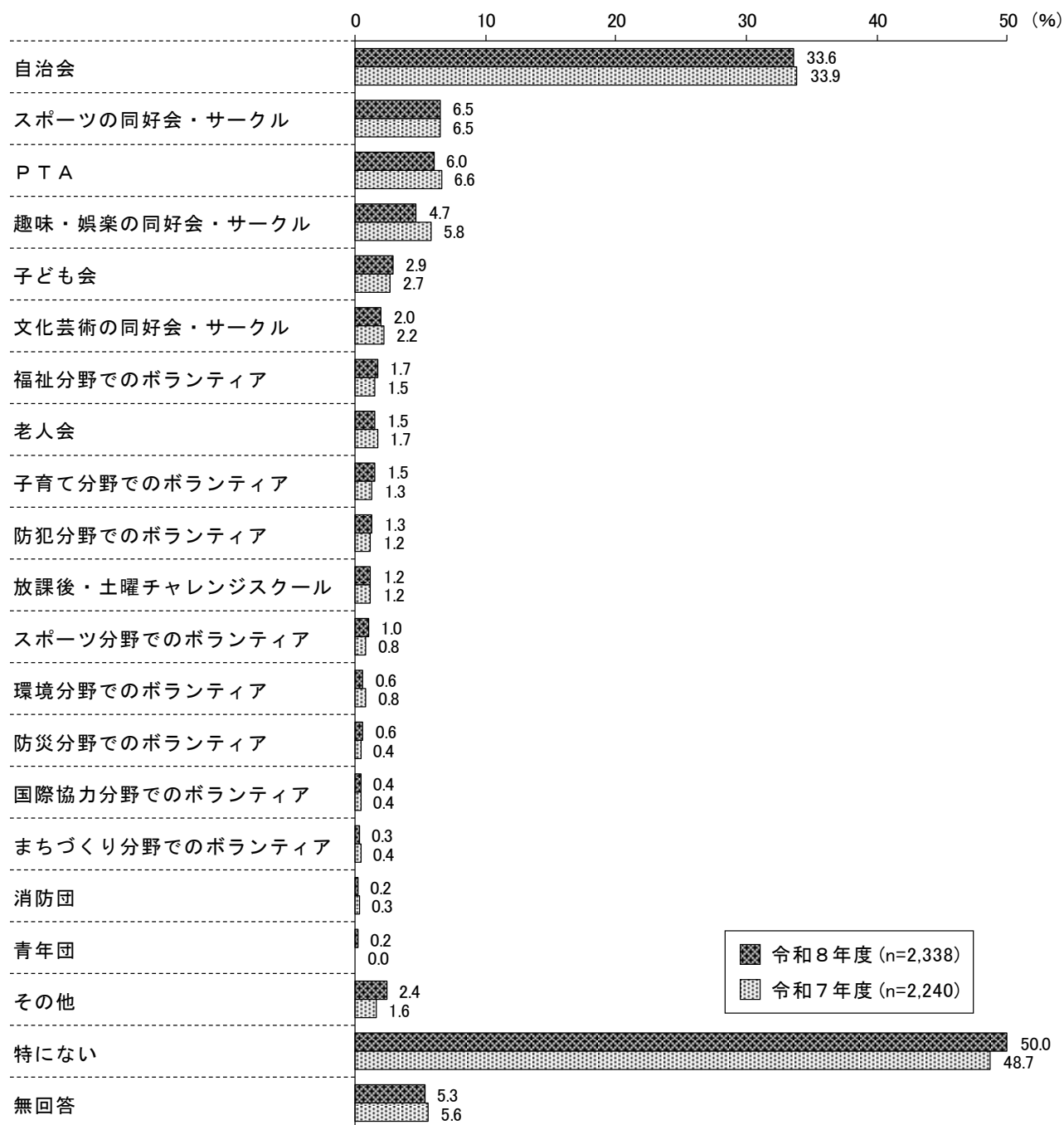


「とても愛着を感じている」(23.8%)と「まあ愛着を感じている」(58.2%)を合わせた『愛着を感じている(計)』(82.0%)は、8割を超えた。一方、「あまり愛着を感じていない」(12.1%)と「まったく愛着を感じていない」(1.8%)を合わせた『愛着を感じていない(計)』(13.9%)は、1割を超えた。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(1) 現在、参加しているすべての活動に○をつけてください。(○はいくつでも)

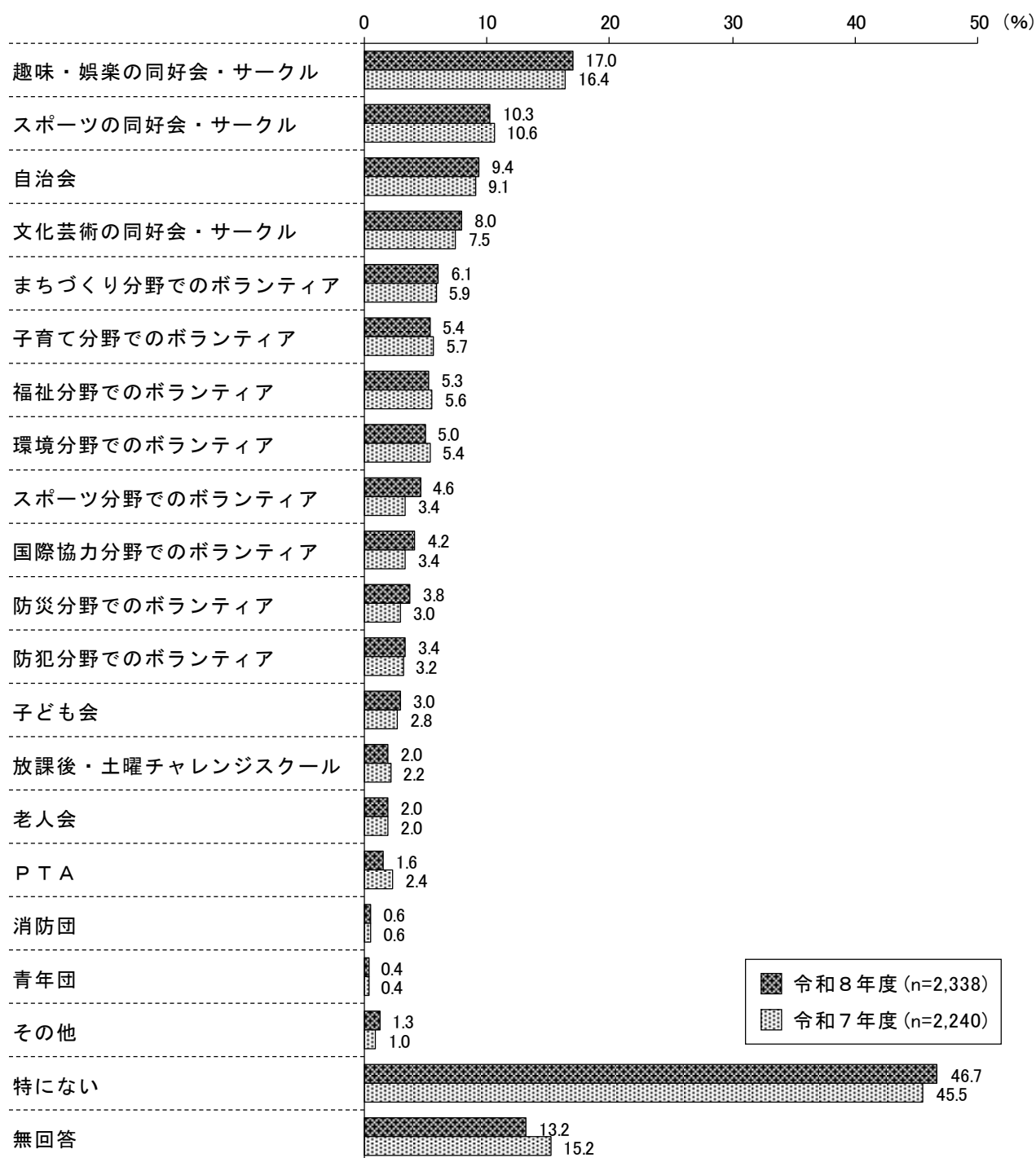


「自治会」(33.6%)が3割を超えたが、それ以外の活動は、いずれも1割未満であった。一方、参加している活動が「特にない」(50.0%)は、5割であった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(2) 今後、参加したいと思うすべての活動に○をつけてください。引き続き参加したい活動も含みます。(○はいくつでも)



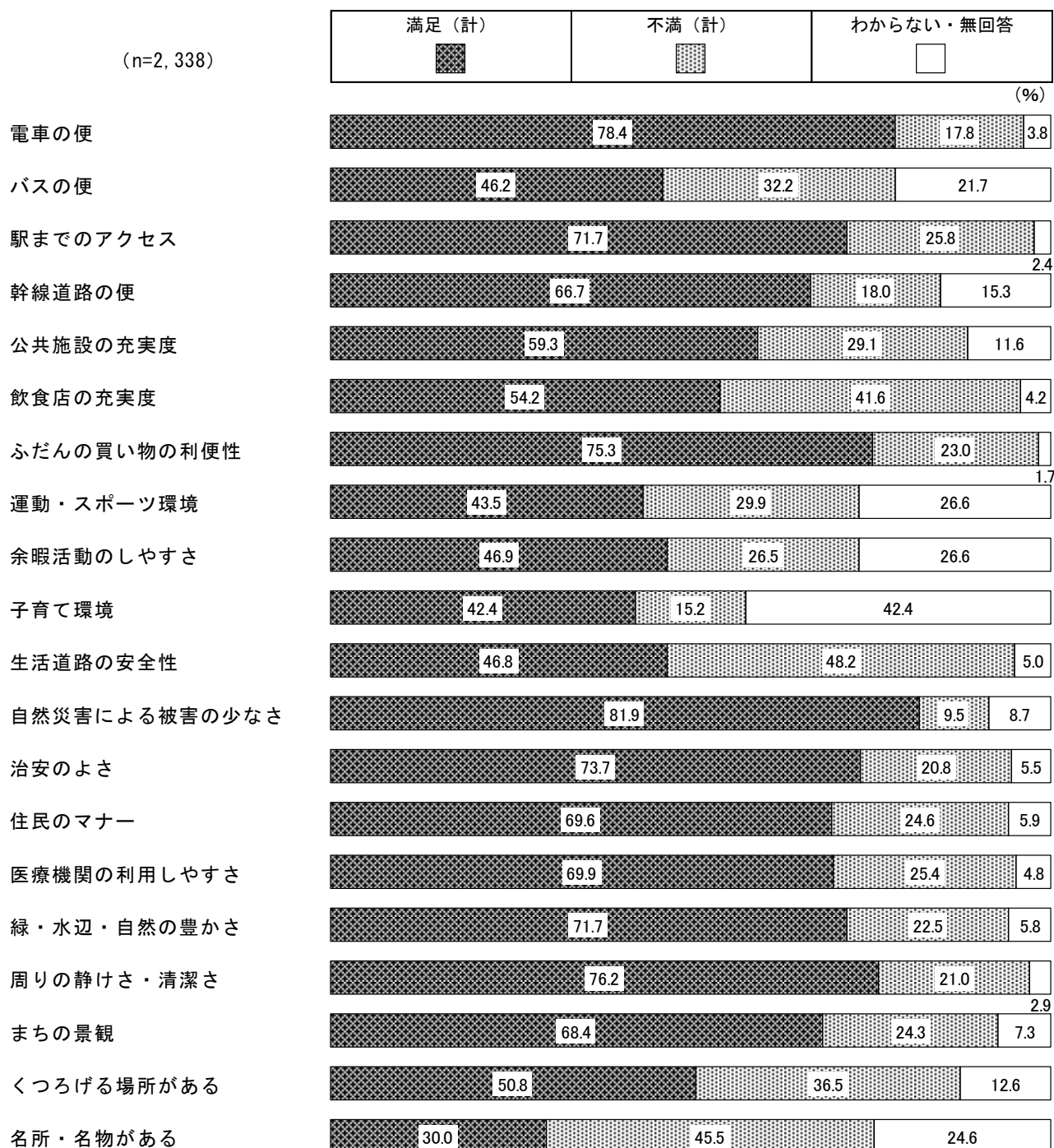
「趣味・娯楽の同好会・サークル」(17.0%)が2割近く、「スポーツの同好会・サークル」(10.3%)が1割で、それ以外の活動は、いずれも1割未満であった。一方、今後、参加したいと思う活動が「特にない」(46.7%)は、5割近くであった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(1) あなたは、お住まいの「地域」について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

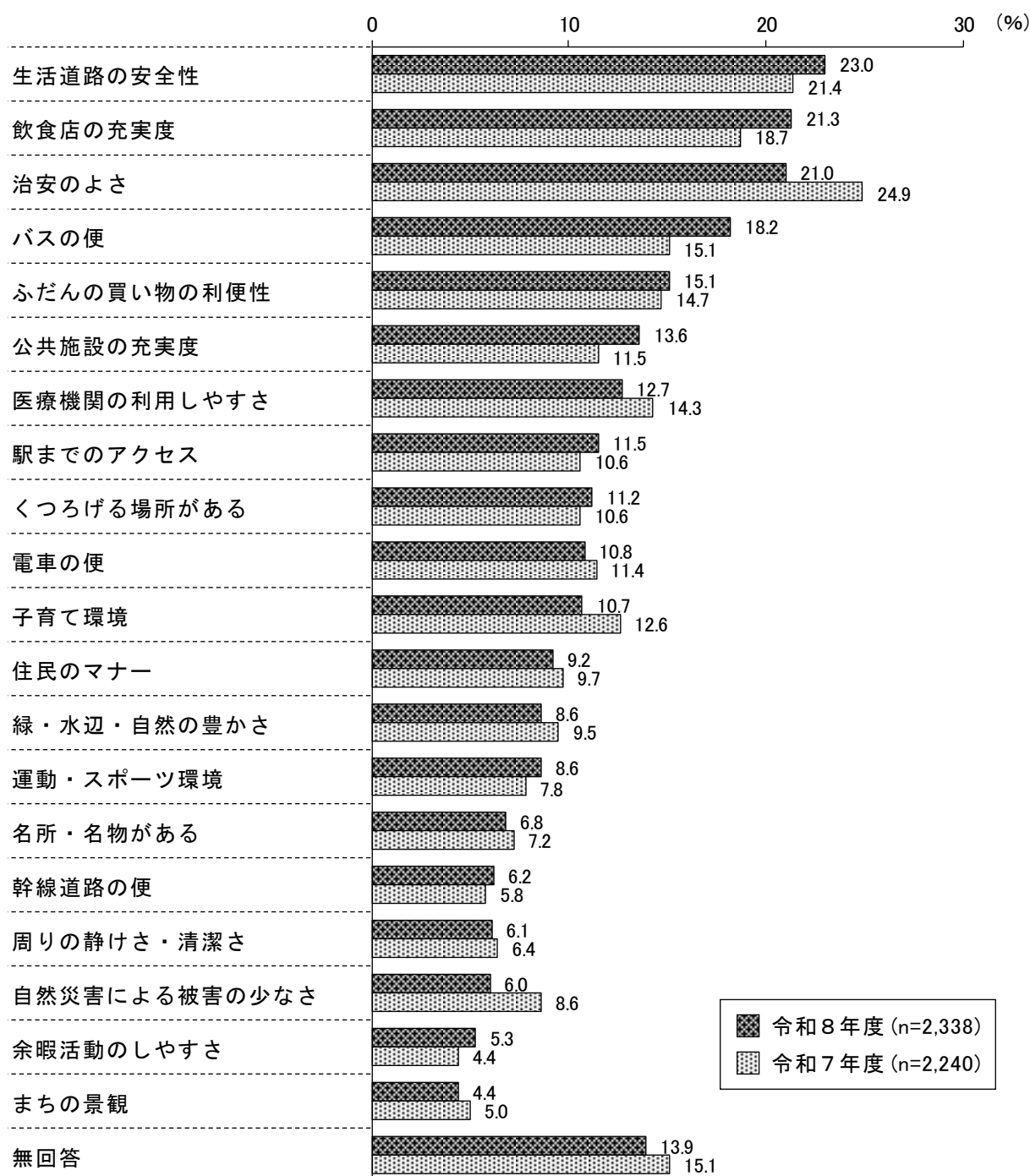


「満足」と「やや満足」を合わせた『満足 (計)』は、「自然災害による被害の少なさ」(81.9%)が8割を超えて最も高く、「電車の便」(78.4%)が8割近く、「周りの静けさ・清潔さ」(76.2%)、「ふだんの買い物の利便性」(75.3%)が7割台半ばであった。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満 (計)』は、「生活道路の安全性」(48.2%)、「名所・名物がある」(45.5%)、「飲食店の充実度」(41.6%)が4割台であった。

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(2) あなたは、お住まいの「地域」で、今後どの項目が発展してほしいと思いますか。

(〇は3つまで)



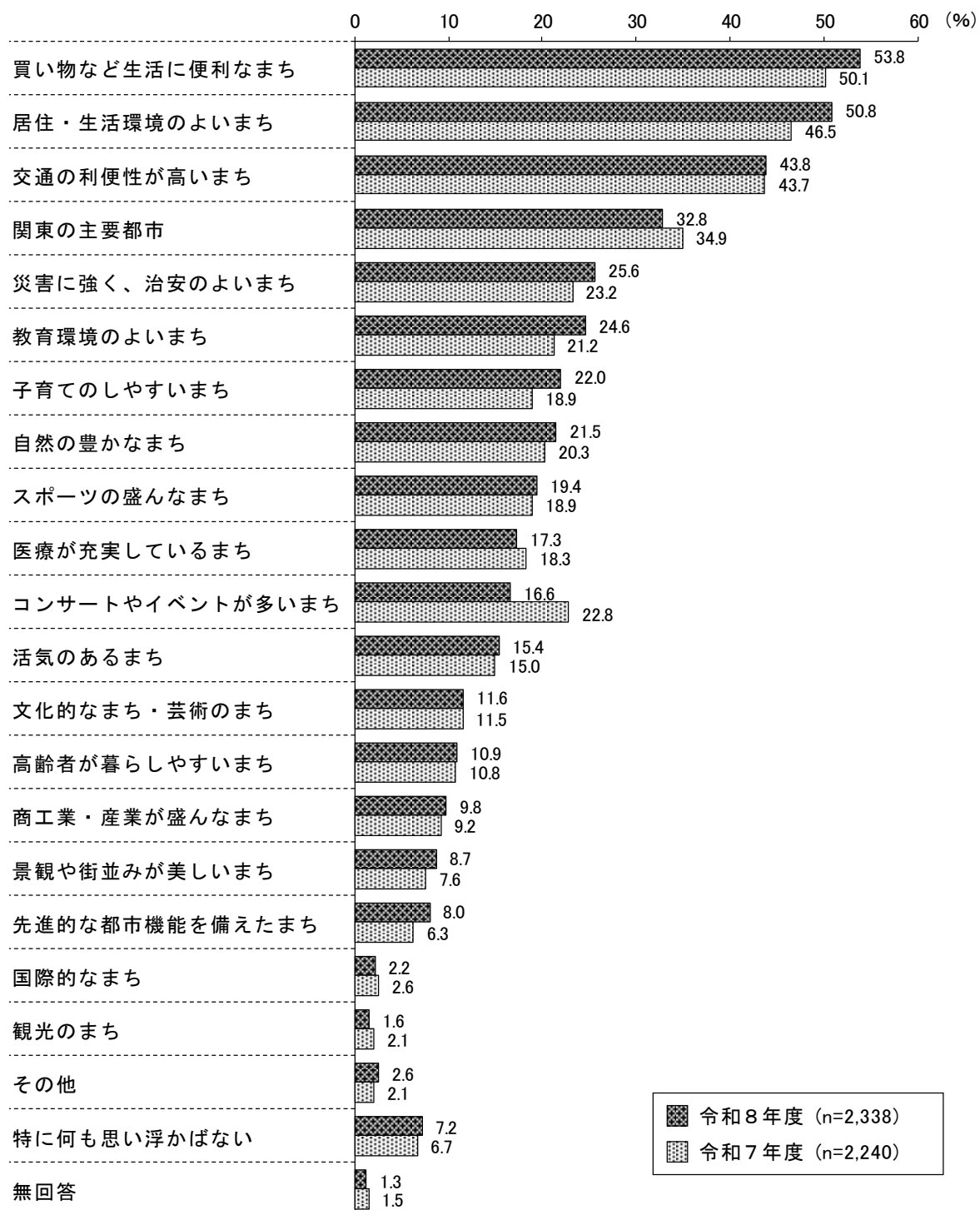
「生活道路の安全性」が 23.0%で最も高く、「飲食店の充実度」(21.3%)、「治安のよさ」(21.0%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「バスの便」が 3.1 ポイント増加した一方、「治安のよさ」が 3.9 ポイント減少した。

(2) さいたま市のイメージ

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1) あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)



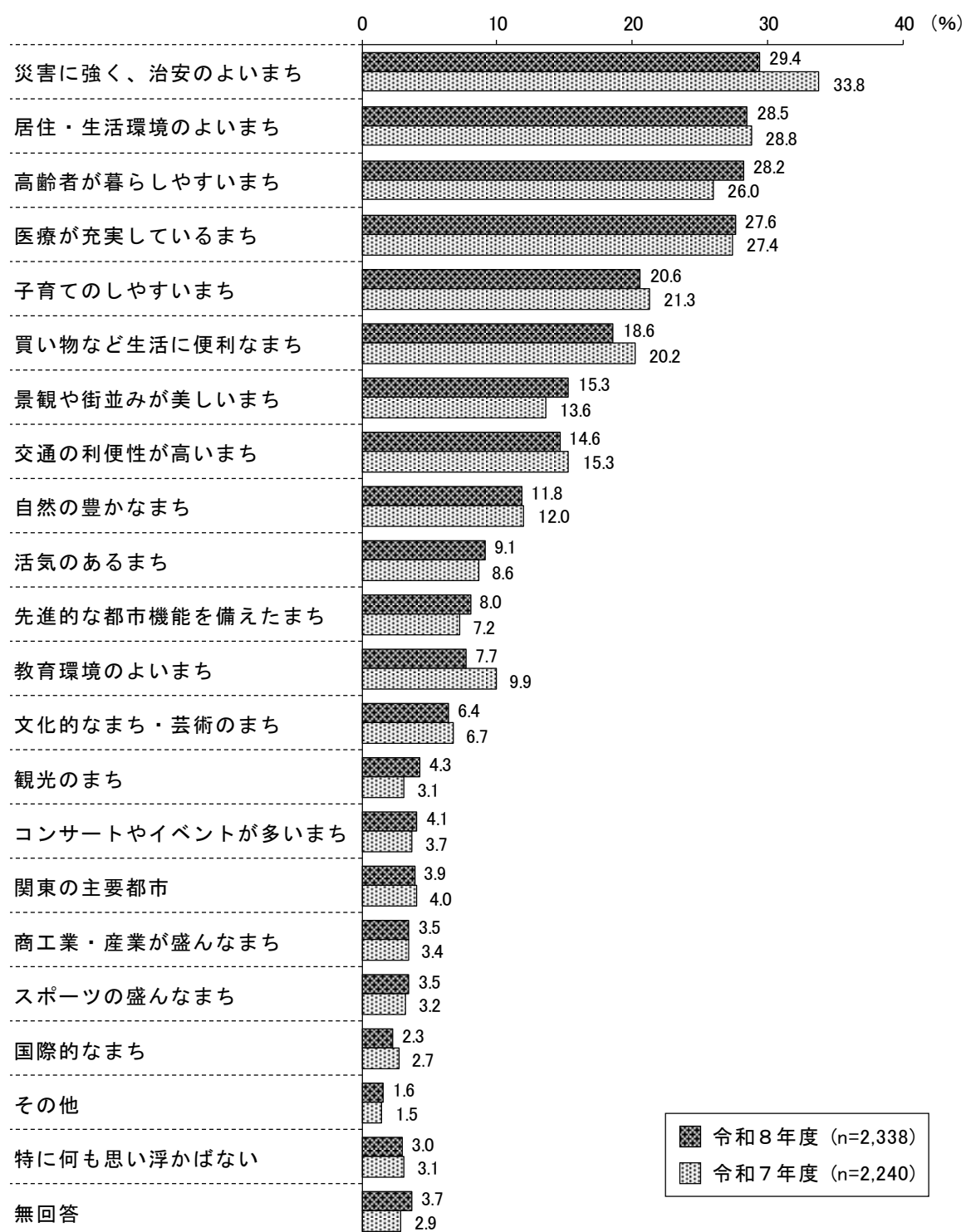
「買い物など生活に便利なまち」が53.8%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(50.8%)、「交通の利便性が高いまち」(43.8%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「居住・生活環境のよいまち」が4.3ポイント増加した一方、「コンサートやイベントが多いまち」が6.2ポイント減少した。

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(2) あなたは、「さいたま市」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。

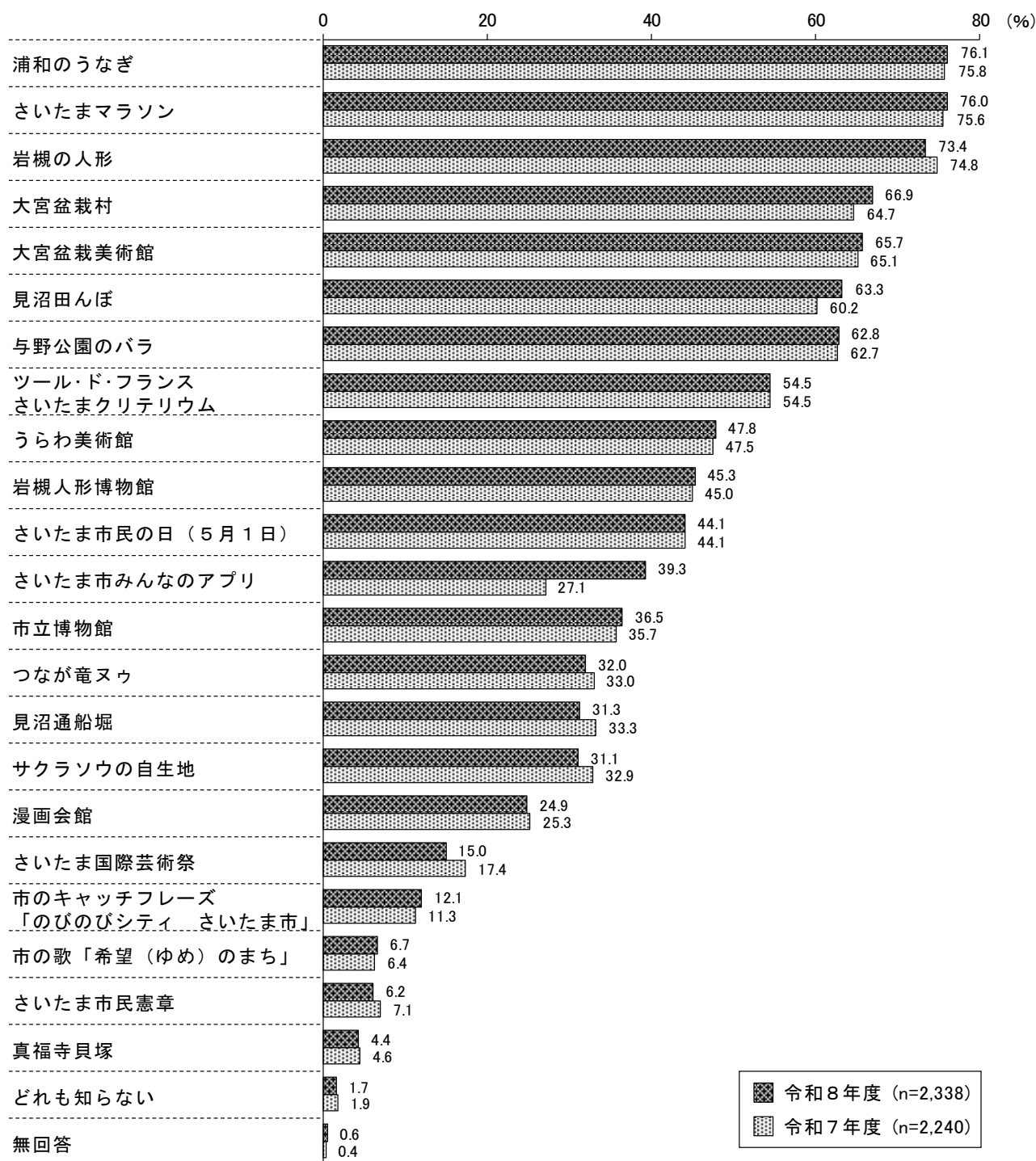
(○は3つまで)



「災害に強く、治安のよいまち」が29.4%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(28.5%)、「高齢者が暮らしやすいまち」(28.2%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「災害に強く、治安のよいまち」が4.4ポイント減少した。

問8 さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

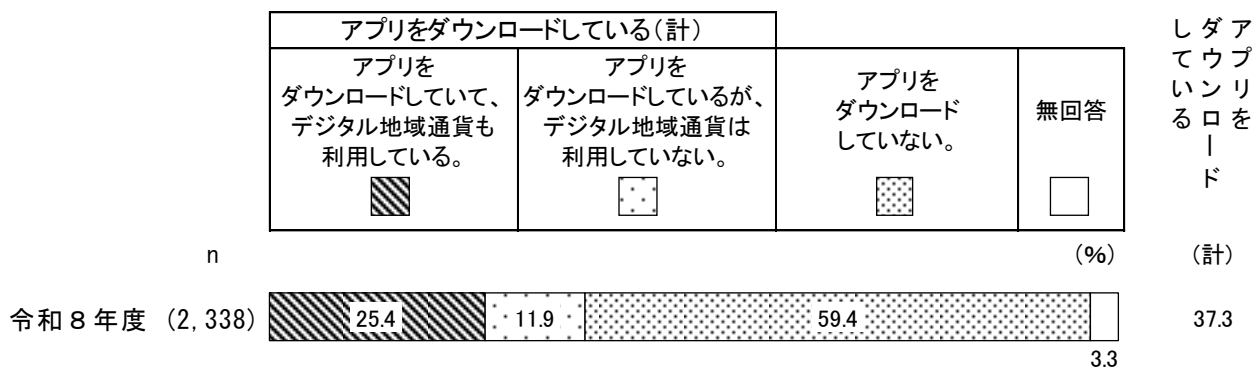


「浦和のうなぎ」が76.1%で最も高く、「さいたまマラソン」(76.0%)、「岩槻の人形」(73.4%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると「さいたま市みんなのアプリ」が12.2ポイント、「見沼田んぼ」が3.1ポイント増加した。

(3) さいたま市みんなのアプリ

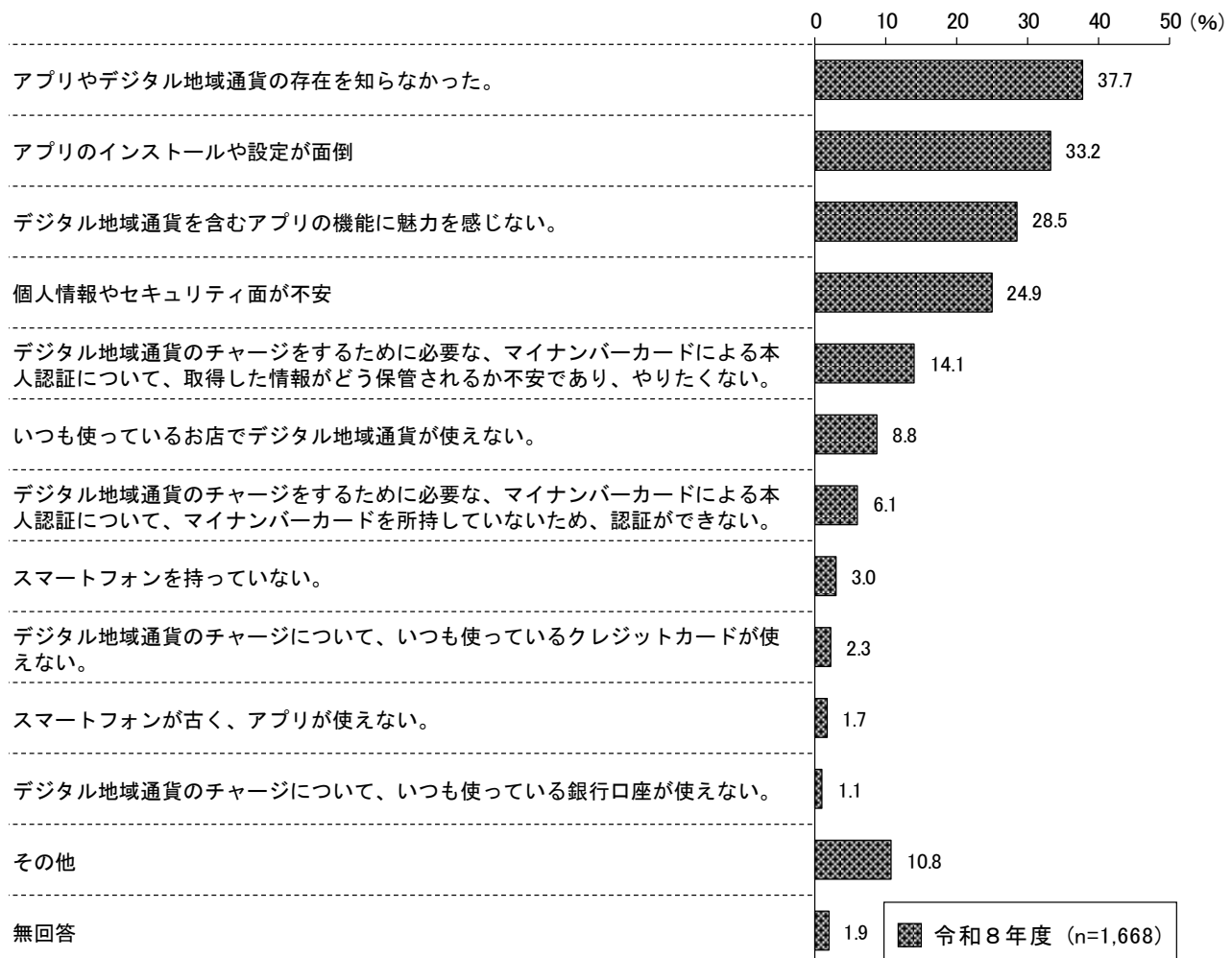
問9 スマートフォンアプリ「さいたま市みんなのアプリ」について、あなたはダウンロードをしていますか。また、そのアプリ内の機能の一つであるデジタル地域通貨「さいコイン・たまポ」について、利用していますか。(○は1つ)



「アプリをダウンロードして、デジタル地域通貨も利用している。」(25.4%)と「アプリをダウンロードしているが、デジタル地域通貨は利用していない。」(11.9%)を合わせた『アプリをダウンロードしている(計)』(37.3%)は、4割近くであった。一方、「アプリをダウンロードしていない。」(59.4%)は、ほぼ6割であった。

（問9で「アプリをダウンロードしているが、デジタル地域通貨は利用していない。」または「アプリをダウンロードしていない。」を選択した方に質問します。）

問9-1 アプリをダウンロードしていない、またはデジタル地域通貨を利用していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

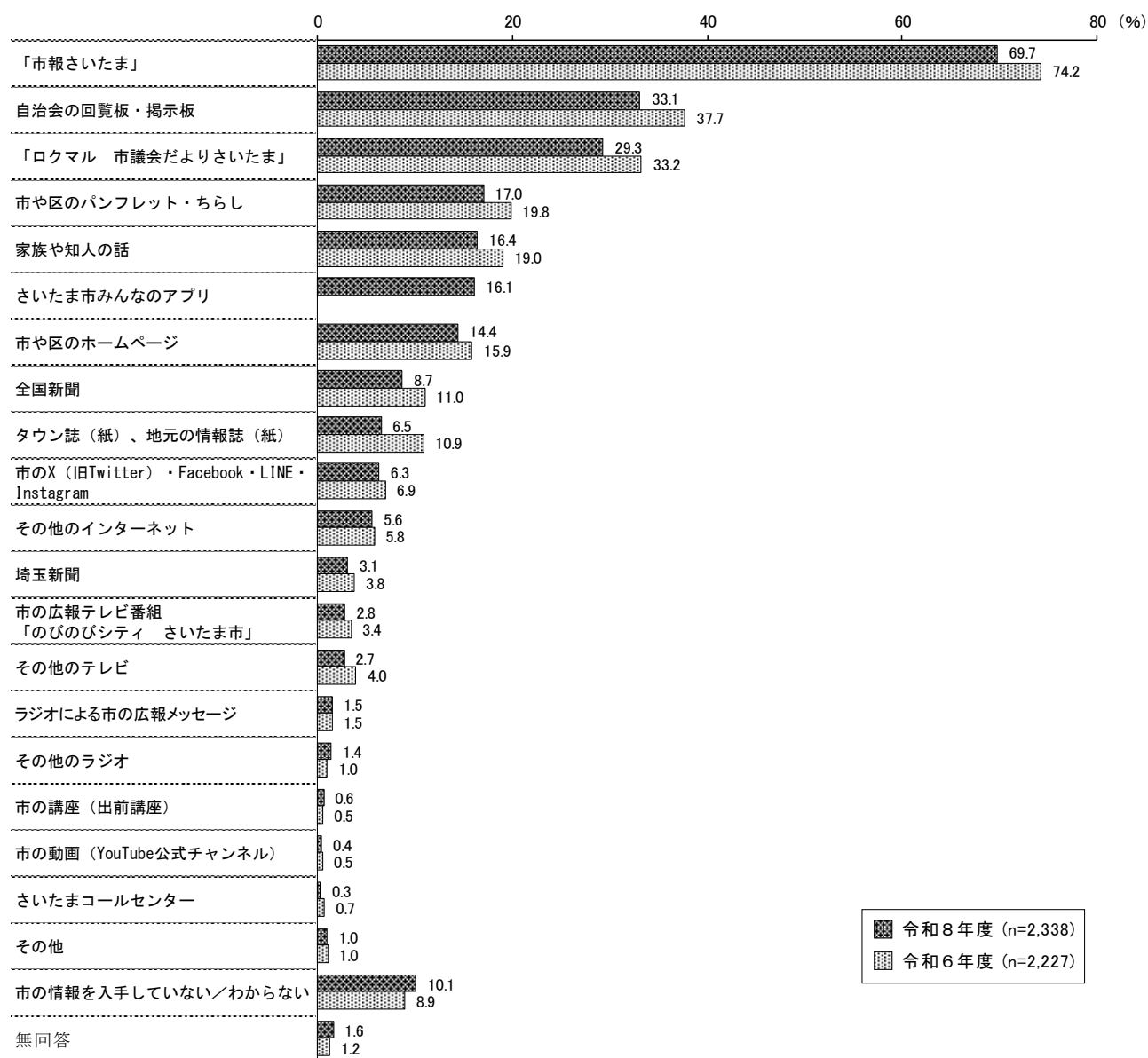


「アプリやデジタル地域通貨の存在を知らなかった。」が37.7%で最も高く、「アプリのインストールや設定が面倒」(33.2%)、「デジタル地域通貨を含むアプリの機能に魅力を感じない。」(28.5%)が続いた。

(4) 市政との関わり

問 10 あなたは、さいたま市役所が発信する情報をどのような方法で入手していますか。

(〇はいくつでも)



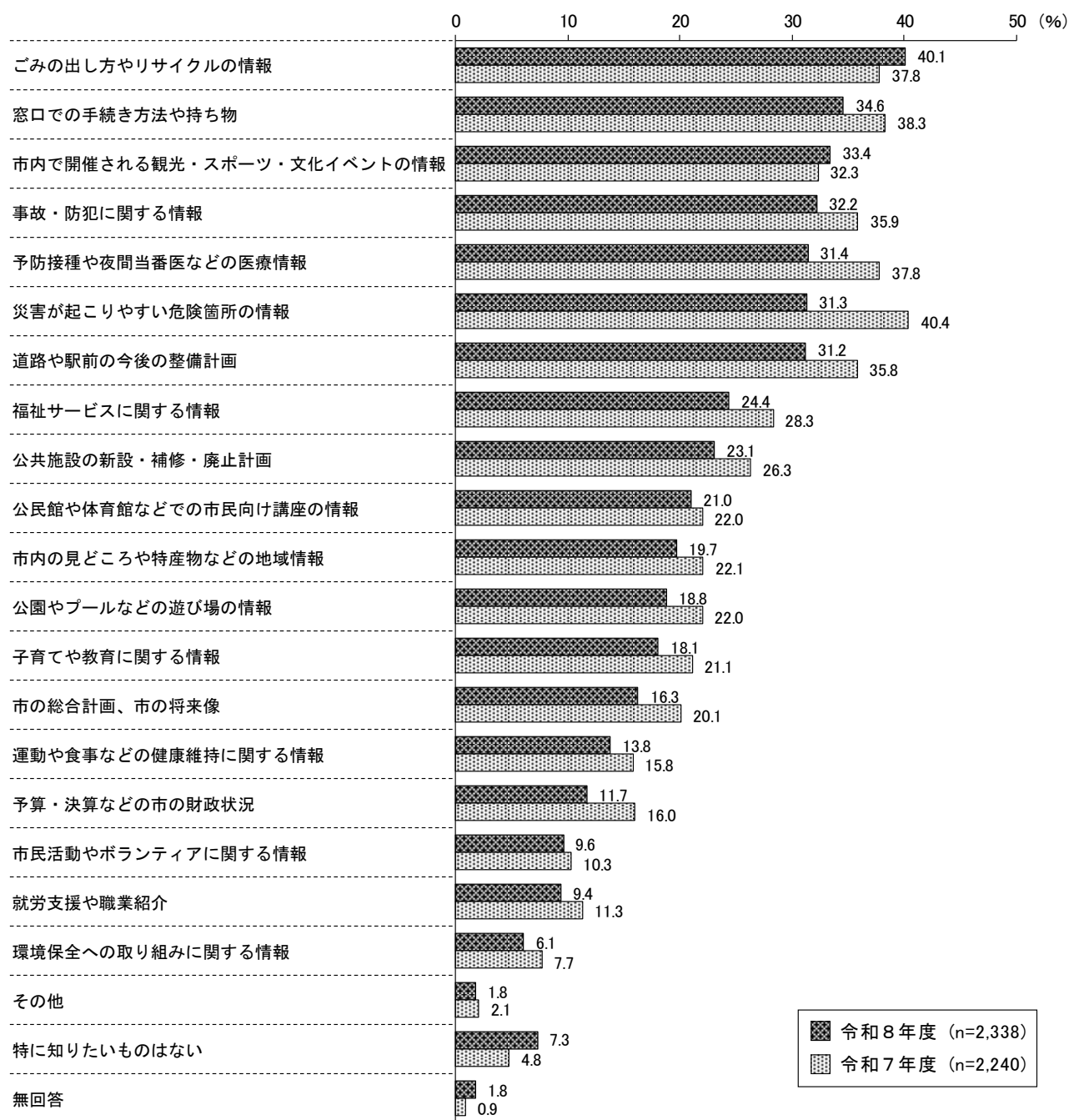
(注記)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和8年度調査から選択肢に加えた。

「市報さいたま」が69.7%で最も高く、「自治会の回覧板・掲示板」(33.1%)、「ロクマル 市議会だよりさいたま」(29.3%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「自治会の回覧板・掲示板」が4.6ポイント、「市報さいたま」が4.5ポイント、「タウン誌（紙）、地元の情報誌（紙）」が4.4ポイント減少した。

問 11 さいたま市役所からの情報で、あなたが特に知りたいのはどのような情報ですか。

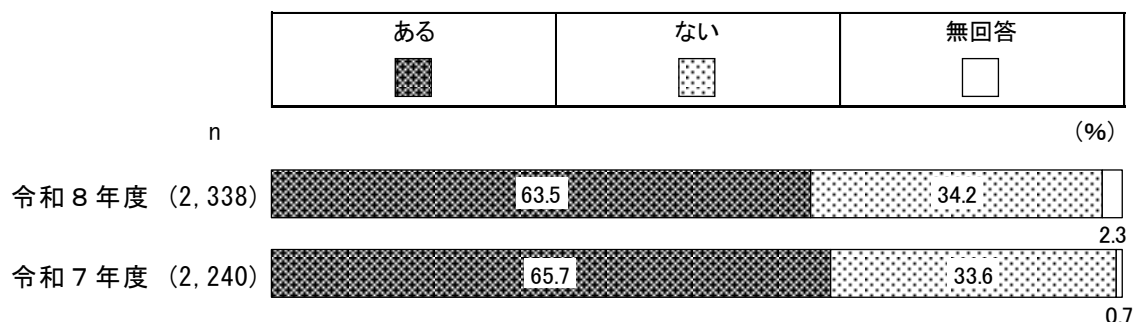
(〇はいくつでも)



「ごみの出し方やリサイクルの情報」が 40.1%で最も高く、「窓口での手続き方法や持ち物」(34.6%)、「市内で開催される観光・スポーツ・文化イベントの情報」(33.4%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が 9.1 ポイント、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」が 6.4 ポイント、「道路や駅前の今後の整備計画」が 4.6 ポイント、「予算・決算などの市の財政状況」が 4.3 ポイント減少した。

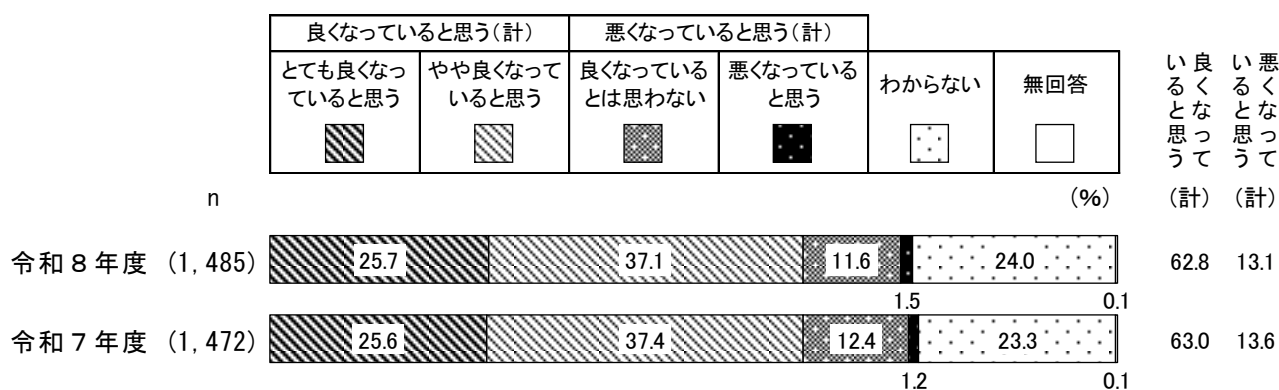
問 12 あなたは、この 1 年以内で、市・区役所を利用したり、電話で問い合わせをしたりしたことがありますか。(○は 1 つ)



1 年以内に利用・問い合わせ経験が「ある」(63.5%) は、6 割を超えた。
令和 7 年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(問 12 で「ある」と答えた方に)

問 12-1 あなたは、最近の市職員のイメージをどう思いますか。(○は 1 つ)

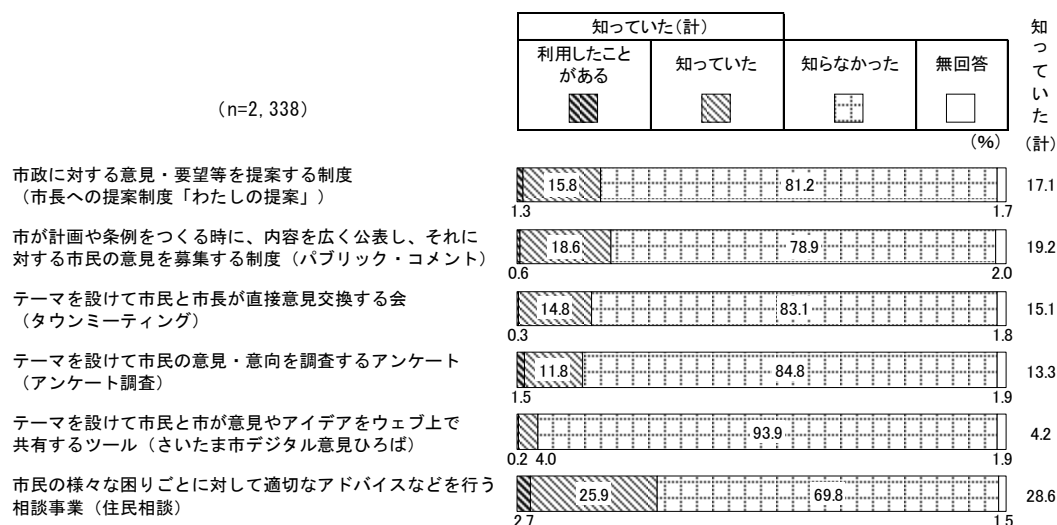


「とても良くなっていると思う」(25.7%) と「やや良くなっていると思う」(37.1%) を合わせた『良くなっていると思う(計)』(62.8%) は、6 割を超えた。一方、「良くなっているとは思わない」(11.6%) と「悪くなっていると思う」(1.5%) を合わせた『悪くなっていると思う(計)』(13.1%) は、1 割を超えた。

令和 7 年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問 13 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(1) 以下の1～6の事業について、どの程度知っていましたか。(〇はそれぞれ1つずつ)

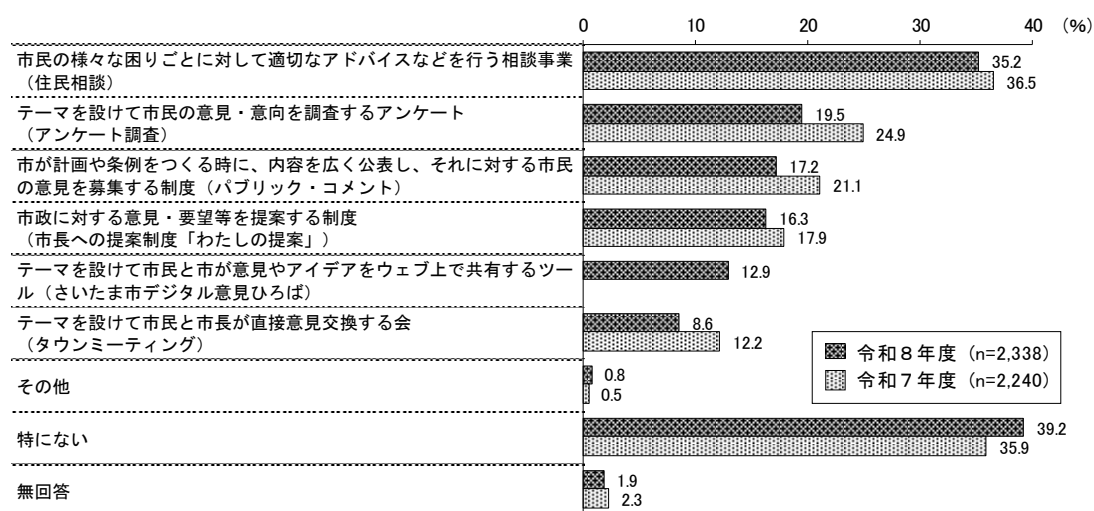


(注記)「テーマを設けて市民と市が意見やアイデアをウェブ上で共有するツール(さいたま市デジタル意見ひろば)」は、令和8年度調査から項目に加えた。

「利用したことがある」と「知っていた」を合わせた『知っていた(計)』は、「住民相談」が28.6%で最も高かった。

問 13 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(2) 前問と同じ1～6の項目で、あなたが今後利用してみたい、あるいは、機会があれば協力してみたい事業に〇をつけてください。(〇はいくつでも)



(注記)「テーマを設けて市民と市が意見やアイデアをウェブ上で共有するツール(さいたま市デジタル意見ひろば)」は、令和8年度調査から選択肢に加えた。

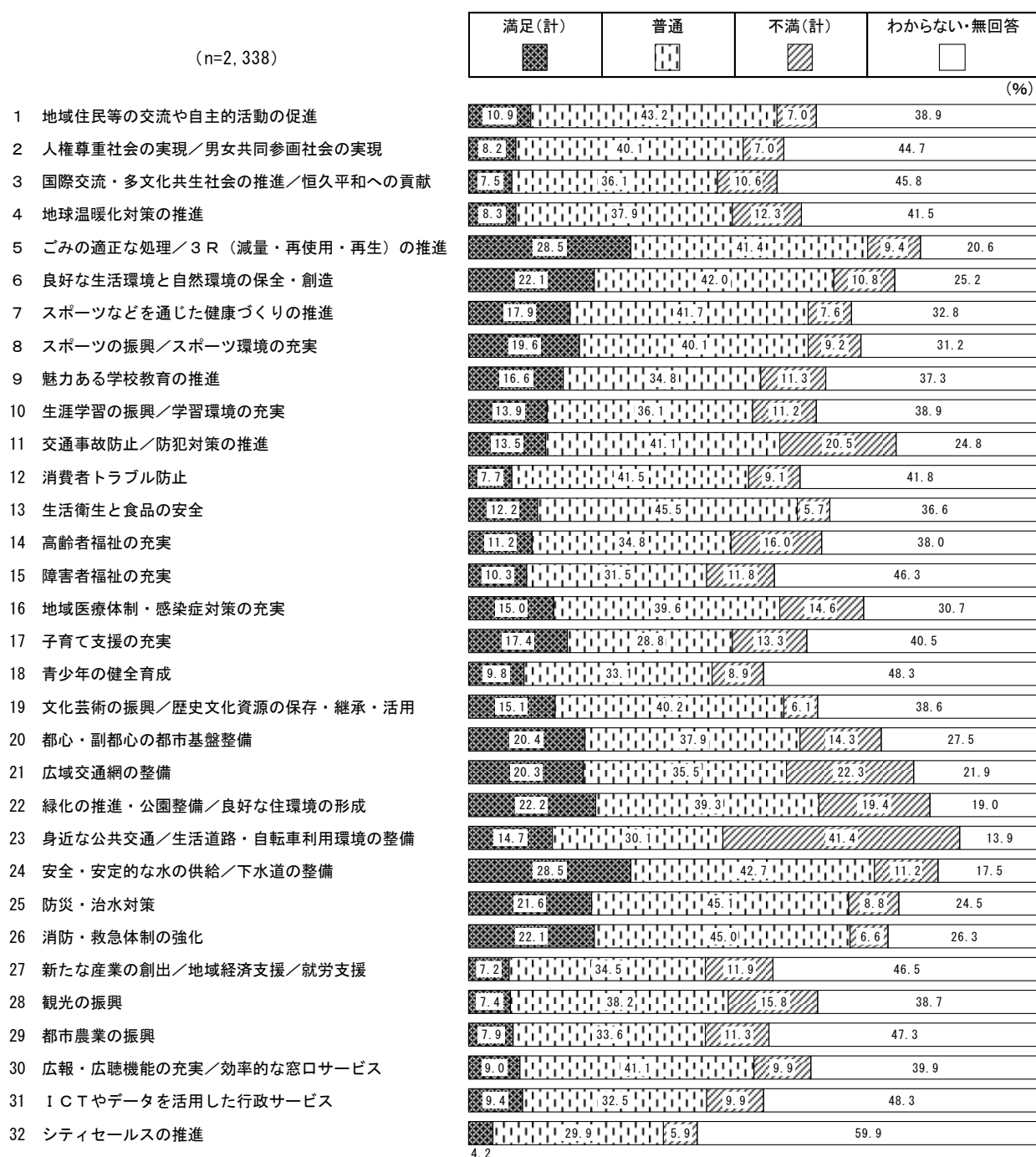
「住民相談」が35.2%で最も高く、「アンケート調査」(19.5%)、「パブリック・コメント」(17.2%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「アンケート調査」が5.4ポイント、「パブリック・コメント」が3.9ポイント、「タウンミーティング」が3.6ポイント減少した。

(5) 市政への満足度・重視度

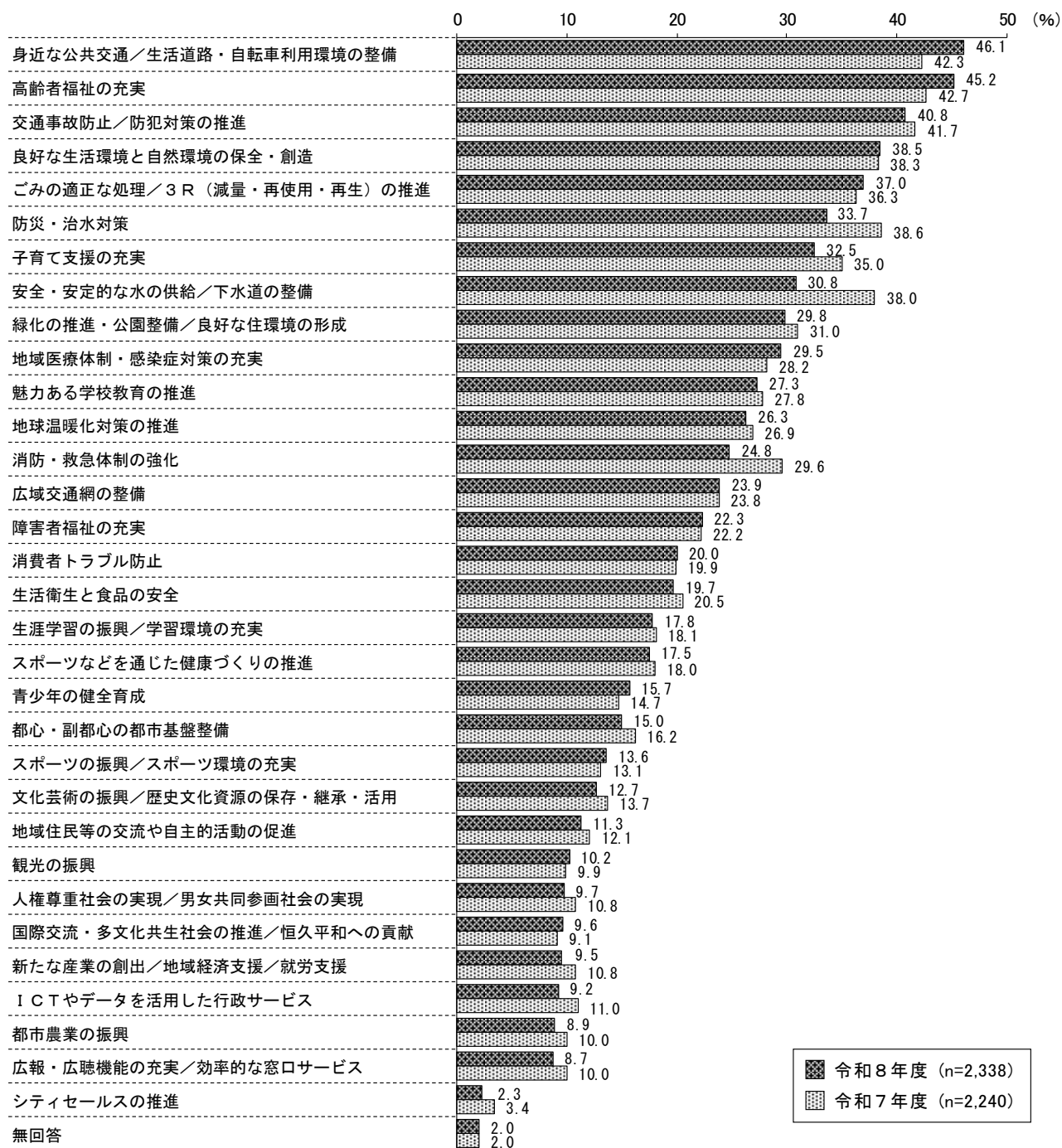
問 14 あなたは、以下の 1～32 の施策や事業について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ 1 つずつ)



「満足」と「やや満足」を合わせた『満足（計）』は、「ごみの適正な処理／3R（減量・再使用・再生）の推進」と「安全・安定的な水の供給／下水道の整備」がともに 28.5% で最も高く、「緑化の推進・公園整備／良好な住環境の形成」(22.2%)、「良好な生活環境と自然環境の保全・創造」、「消防・救急体制の強化」（ともに 22.1%）が続いた。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満（計）』は、「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」が 41.4% で最も高く、「広域交通網の整備」(22.3%)、「交通事故防止／防犯対策の推進」(20.5%)が続いた。

問 15 前問と同じ 1～32 の項目の中で、あなたが、今後力を入れて取り組んでほしいと思うものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

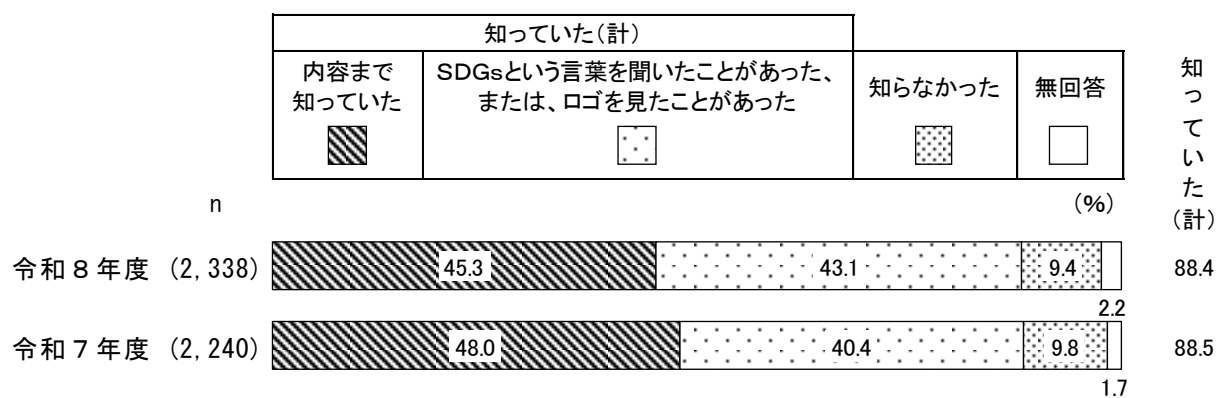


「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」が 46.1% で最も高く、「高齢者福祉の充実」(45.2%)、「交通事故防止／防犯対策の推進」(40.8%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「安全・安定的な水の供給／下水道の整備」が 7.2 ポイント、「防災・治水対策」が 4.9 ポイント、「消防・救急体制の強化」が 4.8 ポイント減少した。

(6) S D G s

問 16 あなたは、S D G sについてどの程度知っていましたか。(○は1つ)



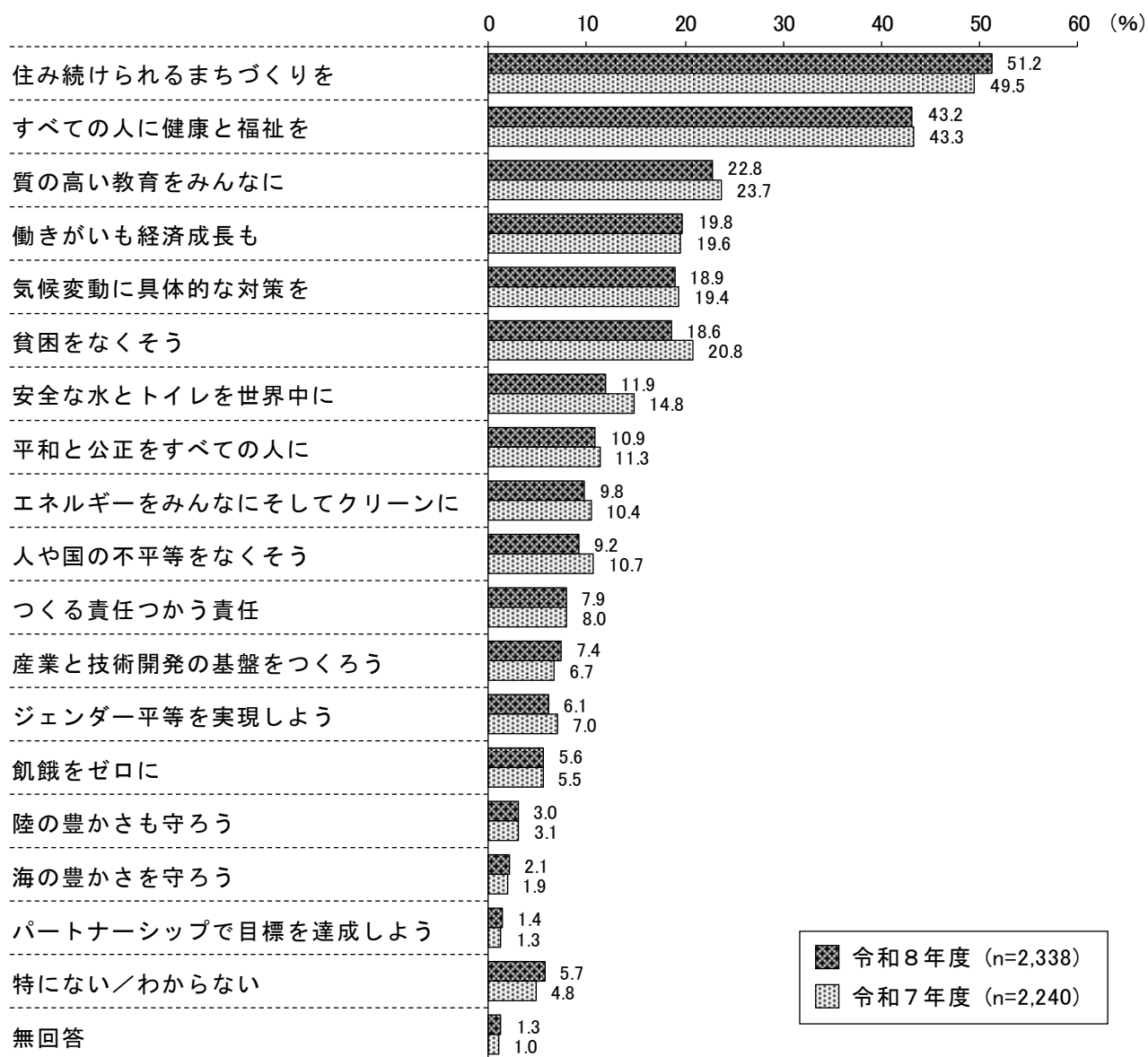
「内容まで知っていた」(45.3%)と「SDGsという言葉聞いたことがあった、または、ロゴを見たことがあった」(43.1%)を合わせた『知っていた(計)』(88.4%)は、9割近くであった。一方、「知らなかった」(9.4%)は、ほぼ1割であった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問 17 SDGsは国際的な目標ですが、様々な地域で一人ひとりがその達成に向けて取り組んでいます。

今後、さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために、どの目標の実現を重視する
 と思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。

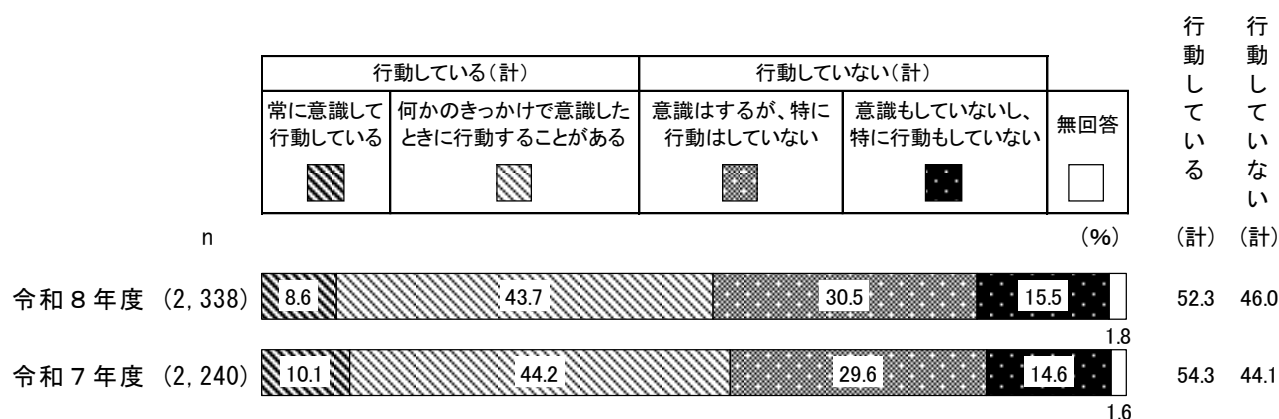
(〇は3つまで)



「住み続けられるまちづくりを」が51.2%で最も高く、「すべての人に健康と福祉を」(43.2%)が続いた。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問 18 あなたは、家庭や仕事などの日常生活において、SDGsの17の目標のうち、1つでも意識して行動をしていますか。(〇は1つ)

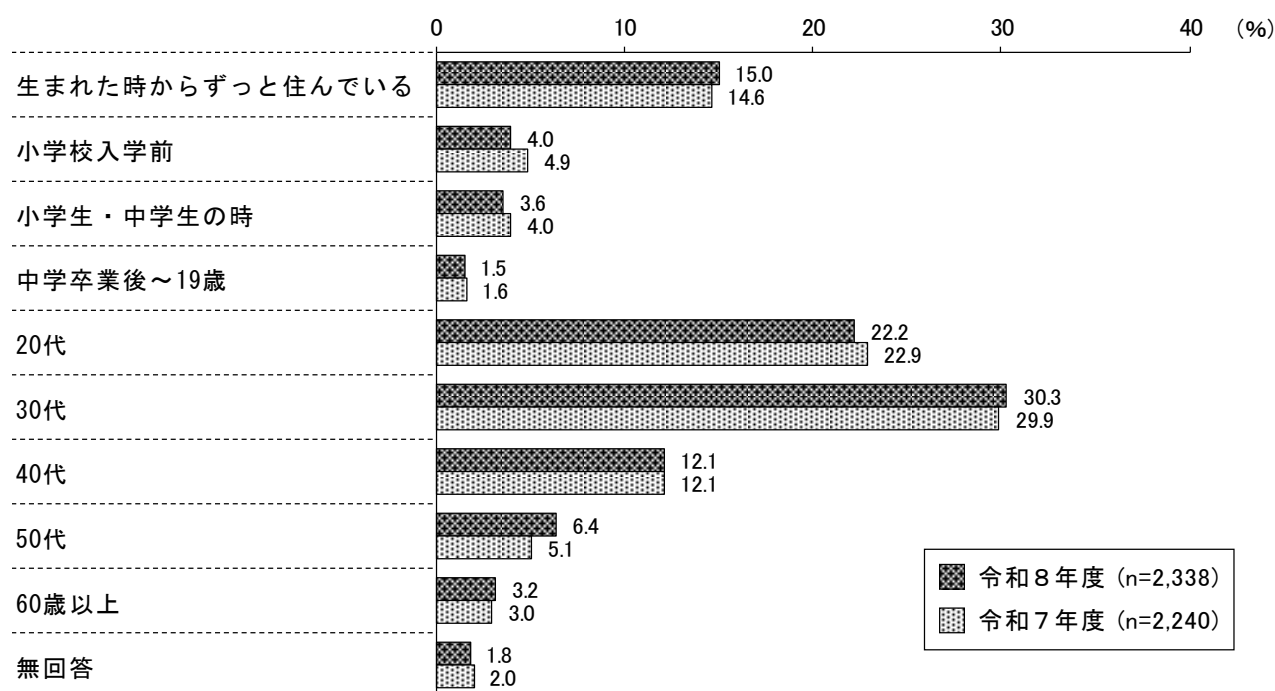


「常に意識して行動している」(8.6%)と「何かのきっかけで意識したときに行動することがある」(43.7%)を合わせた『行動している(計)』(52.3%)は、5割を超えた。一方、「意識はするが、特に行動はしていない」(30.5%)と「意識もしていないし、特に行動もしていない」(15.5%)を合わせた『行動していない(計)』(46.0%)は、4割半ばであった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(7) 今の地域を選んだ理由

問 19 今の地域に住み始めたのは、あなたがいくつの時ですか。(〇は1つ)

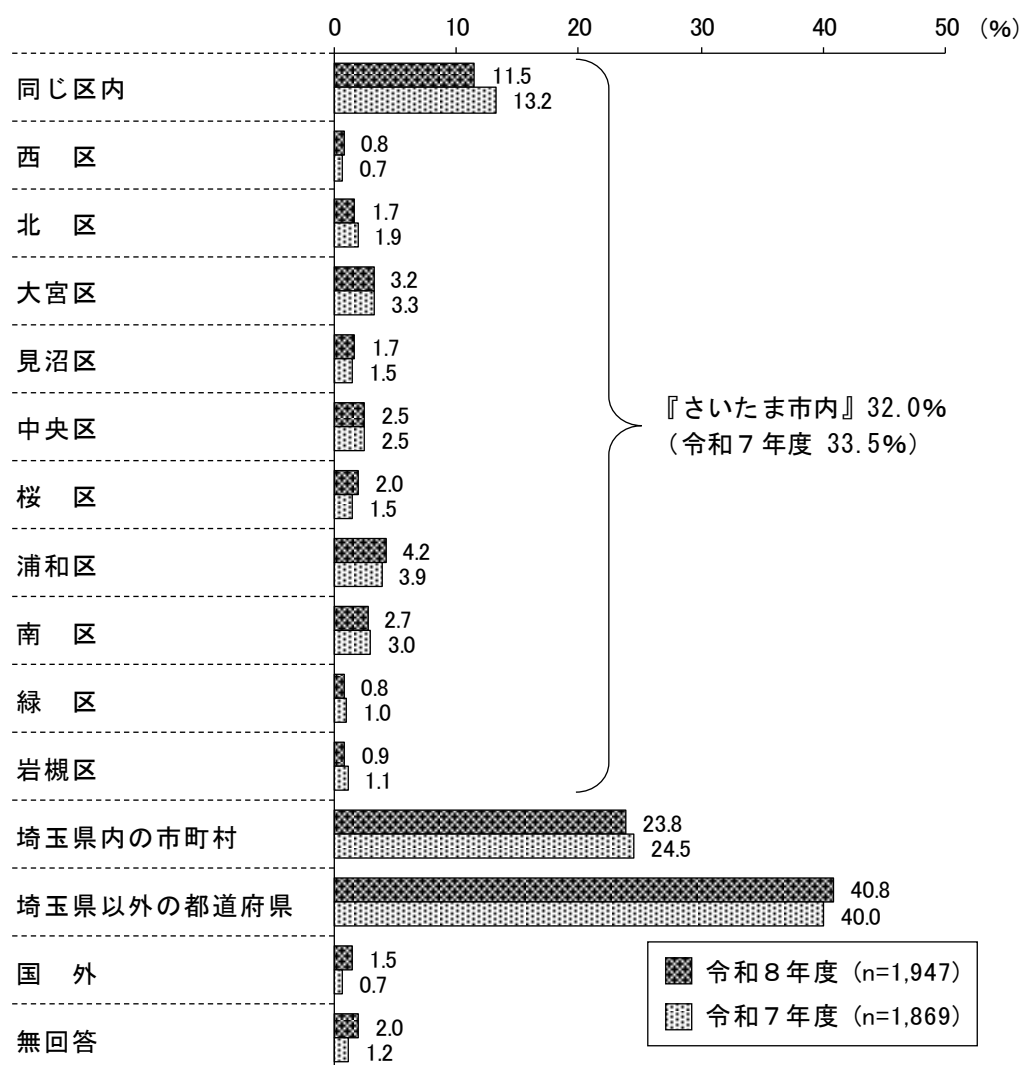


「30代」が30.3%で最も高く、「20代」(22.2%)、「生まれた時からずっと住んでいる」(15.0%)が続いた。全体の半数が20～30代に転入している。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(引っ越してきた人に質問します。)

問 19－1 どこから、今の地域に引っ越してきましたか。同じ区内で転居した方は、現在お住まいの区を選んでください。(〇は1つ)



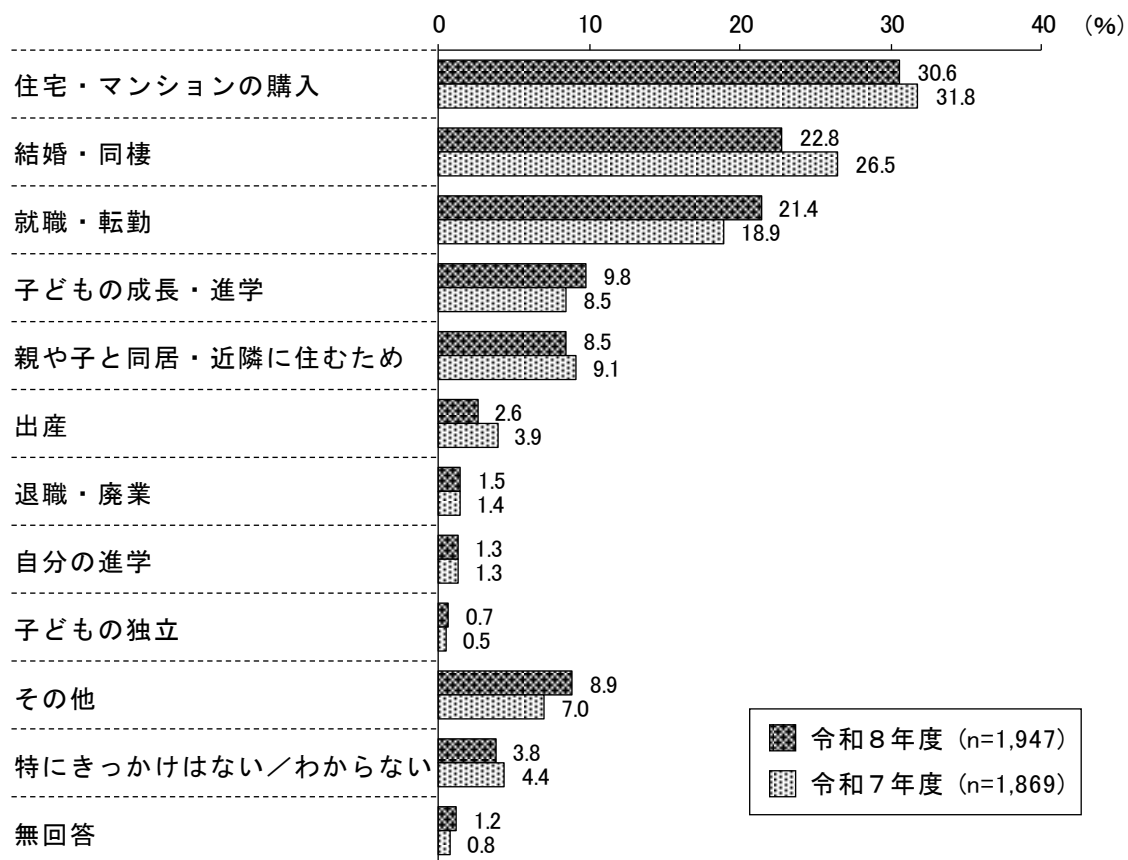
(注) この質問でさいたま市内の10区を答えた人の回答が、居住区(参照: 報告書5ページ・(3)居住区)の回答と同じである人を「同じ区内」に区分して再集計した結果を示している。

『さいたま市内』の合計が32.0%で、「埼玉県内の市町村」は23.8%、「埼玉県以外の都道府県」は40.8%であった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(引っ越してきた人に質問します。)

問 19-2 以前の地域から引っ越してきたきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

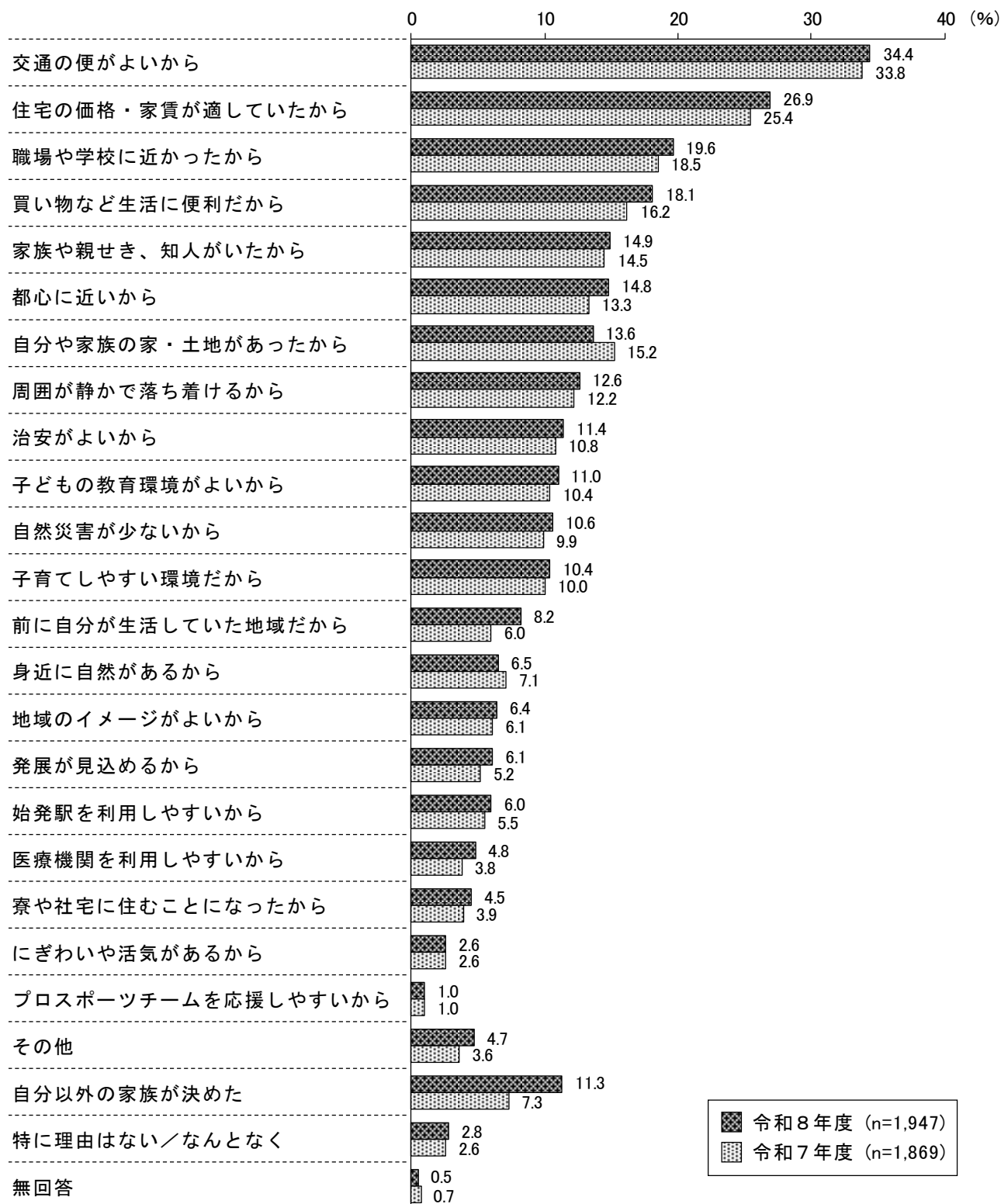


「住宅・マンションの購入」が 30.6%で最も高く、「結婚・同棲」(22.8%)、「就職・転勤」(21.4%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「結婚・同棲」が 3.7 ポイント減少した。

(引っ越してきた人に質問します。)

問 19-3 今の地域を選んだ大きな理由は何ですか。(〇はいくつでも)



「交通の便がよいから」が34.4%で最も高く、「住宅の価格・家賃が適していたから」(26.9%)、「職場や学校に近かったから」(19.6%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「自分以外の家族が決めた」が4.0ポイント増加した。

Ⅲ 在勤者意識調査

1 調査結果の要約

(1) さいたま市のイメージは、「買い物など生活に便利なまち」、「交通の利便性が高いまち」

さいたま市のイメージとして、「買い物など生活に便利なまち」が 59.9%で最も高く、「交通の利便性が高いまち」(57.5%)、「居住・生活環境のよいまち」(36.7%)が続いた。

(参照：報告書 35 ページ・問 1 (1))

(2) 「さいたまマラソン」の知名度が6割

さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどの知名度は、「さいたまマラソン」が 60.1%で最も高く、「浦和のうなぎ」(59.2%)、「岩槻の人形」(57.7%)が続いた。

(参照：報告書 37 ページ・問 2)

(3) 市の情報を入手する方法は、「家族や知人の話」が2割半ば

市の情報を入手する方法としては、「家族や知人の話」が 24.6%で最も高く、「その他のインターネット」(14.0%)、「埼玉新聞」(13.0%)が続いた。

(参照：報告書 38 ページ・問 3)

(4) 住みやすいまちの条件は、「電車の便がよい」、「治安がよい」が多い

住みやすいまちの条件としては、「電車の便がよい」が 75.4%で最も高く、「治安がよい」(73.9%)、「ふだんの買い物がしやすい」(66.8%)が続いた。また、さいたま市が住みやすいまちだと思うか聞いたところ、「そう思う」は 47.8%であった。(参照：報告書 39～40 ページ・問 4 (1)、問 4 (2))

(5) さいたま市内に立ち寄る目的は、「買い物」と「飲食」

仕事のあと、月 1 回以上さいたま市内に立ち寄る人は 68.9%であり、立ち寄る目的は「買い物」(76.0%)と「飲食」(66.0%)が特に高かった。(参照：報告書 40～41 ページ・問 5、問 5－1)

(6) 買い物や遊びで、さいたま市に来てみたい人は、7割超え

仕事が休みの日に、買い物や遊びで、さいたま市に来てみたいと思う人は、72.6%であった。

(参照：報告書 41 ページ・問 6)

2 回答者の属性

(1) 性別

属 性	回答者数	比率
男 性	363	54.1%
女 性	292	43.5
選べない・答えたくない	11	1.6
無回答	5	0.7
全 体	671	100.0

(2) 年代

属 性	回答者数	比率
18～19歳	6	0.9%
20代	76	11.3
30代	113	16.8
40代	177	26.4
50代	213	31.7
60代	75	11.2
70歳以上	8	1.2
無回答	3	0.4
全 体	671	100.0

(3) 居住地域

属 性	回答者数	比率
近隣市北部	123	18.3%
近隣市南部	95	14.2
埼玉県西部及び秩父地域	102	15.2
埼玉県東部地域	136	20.3
埼玉県北部地域	13	1.9
東京都23区	68	10.1
その他の東京都	23	3.4
千葉県	31	4.6
神奈川県	14	2.1
その他	59	8.8
無回答	7	1.0
全 体	671	100.0

(4) 在勤区

属 性	回答者数	比率
西 区	46	6.9%
北 区	33	4.9
大宮区	128	19.1
見沼区	69	10.3
中央区	105	15.6
桜 区	43	6.4
浦和区	83	12.4
南 区	96	14.3
緑 区	26	3.9
岩槻区	38	5.7
無回答	4	0.6
全 体	671	100.0

(5) さいたま市内での在勤年数 (合併前も含む)

属 性	回答者数	比率
1年未満	78	11.6%
1～3年未満	98	14.6
3～5年未満	84	12.5
5～10年未満	126	18.8
10～20年未満	146	21.8
20年以上	136	20.3
無回答	3	0.4
全 体	671	100.0

(6) 通勤時間

属 性	回答者数	比率
30分未満	125	18.6%
30分～1時間未満	272	40.5
1時間～1時間半未満	189	28.2
1時間半～2時間未満	67	10.0
2時間以上	15	2.2
無回答	3	0.4
全 体	671	100.0

(7) 通勤手段

属 性	回答者数	比率
電車	427	63.6%
路線バス	9	1.3
送迎バス	0	0.0
自家用車	163	24.3
バイク	13	1.9
自転車	26	3.9
徒歩	16	2.4
その他	5	0.7
無回答	12	1.8
全 体	671	100.0

(8) 家族構成

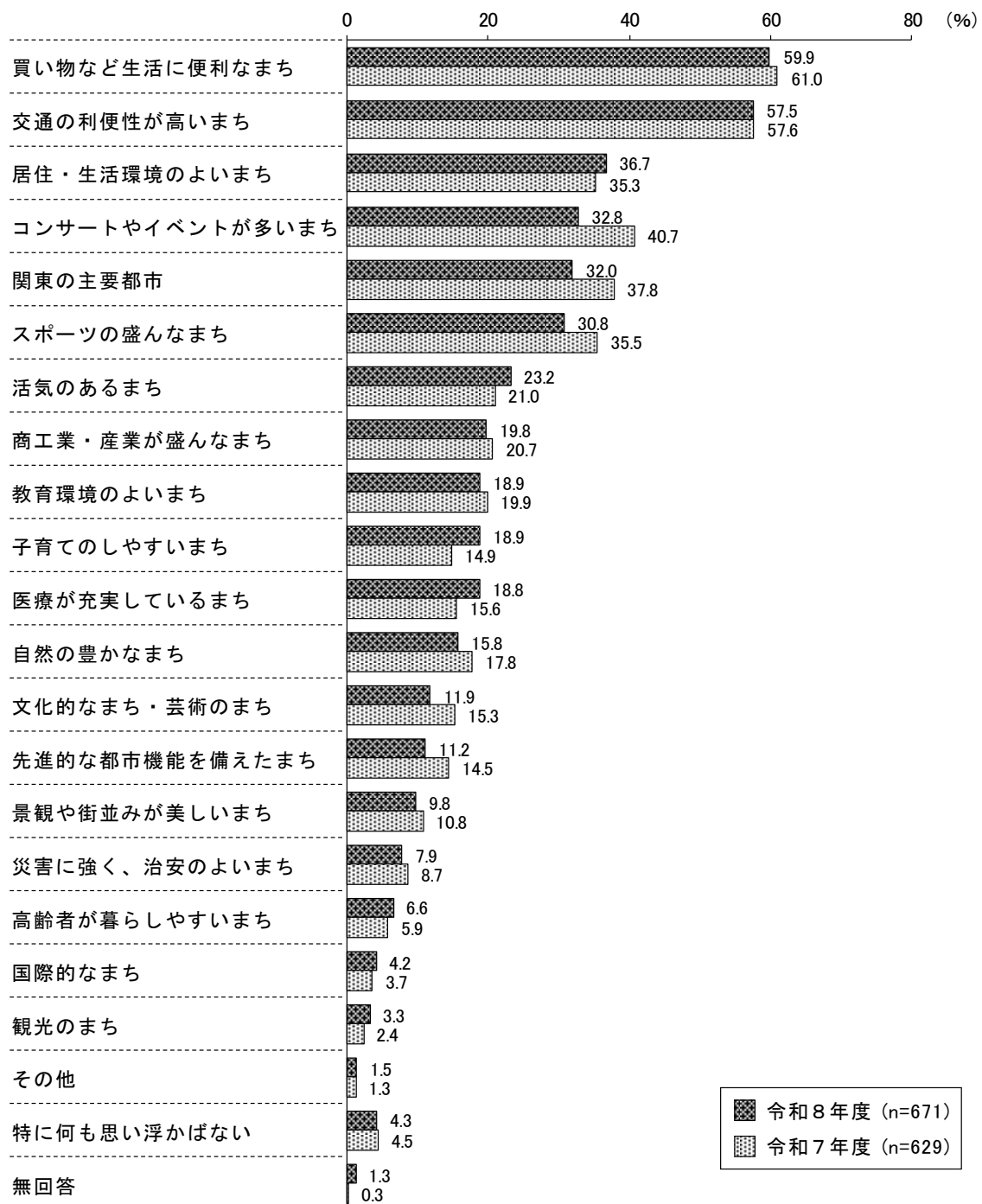
属 性	回答者数	比率
一人暮らし	114	17.0%
夫婦だけ	115	17.1
親子（2世代）	386	57.5
親と子と孫（3世代）	28	4.2
その他	24	3.6
無回答	4	0.6
全 体	671	100.0

3 調査の結果

(1) さいたま市のイメージ

問1 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1) あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

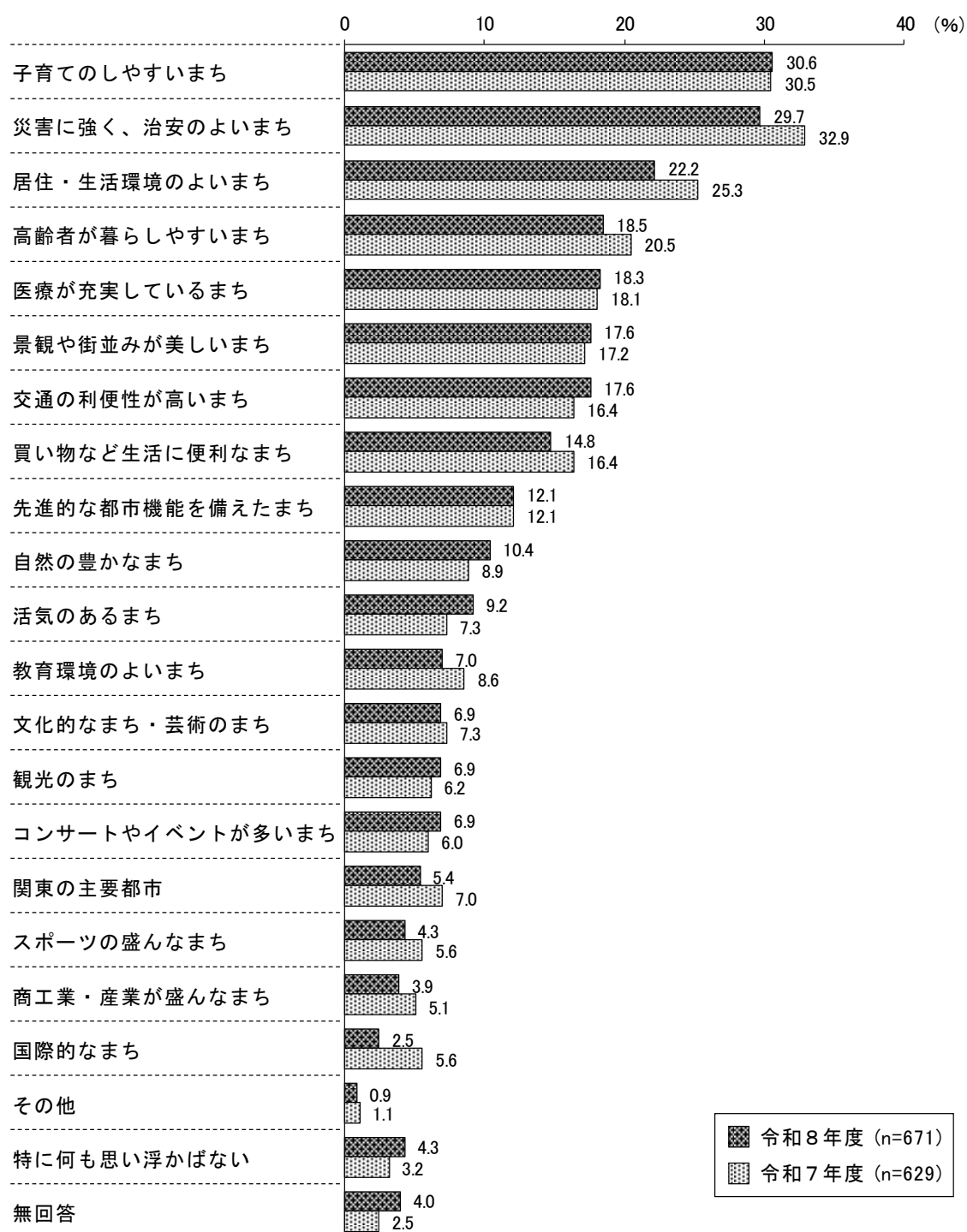


「買い物など生活に便利なまち」が59.9%で最も高く、「交通の利便性が高いまち」(57.5%)、「居住・生活環境のよいまち」(36.7%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「コンサートやイベントが多いまち」が7.9ポイント、「関東の主要都市」が5.8ポイント、「スポーツの盛んなまち」が4.7ポイント減少した。

問1 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

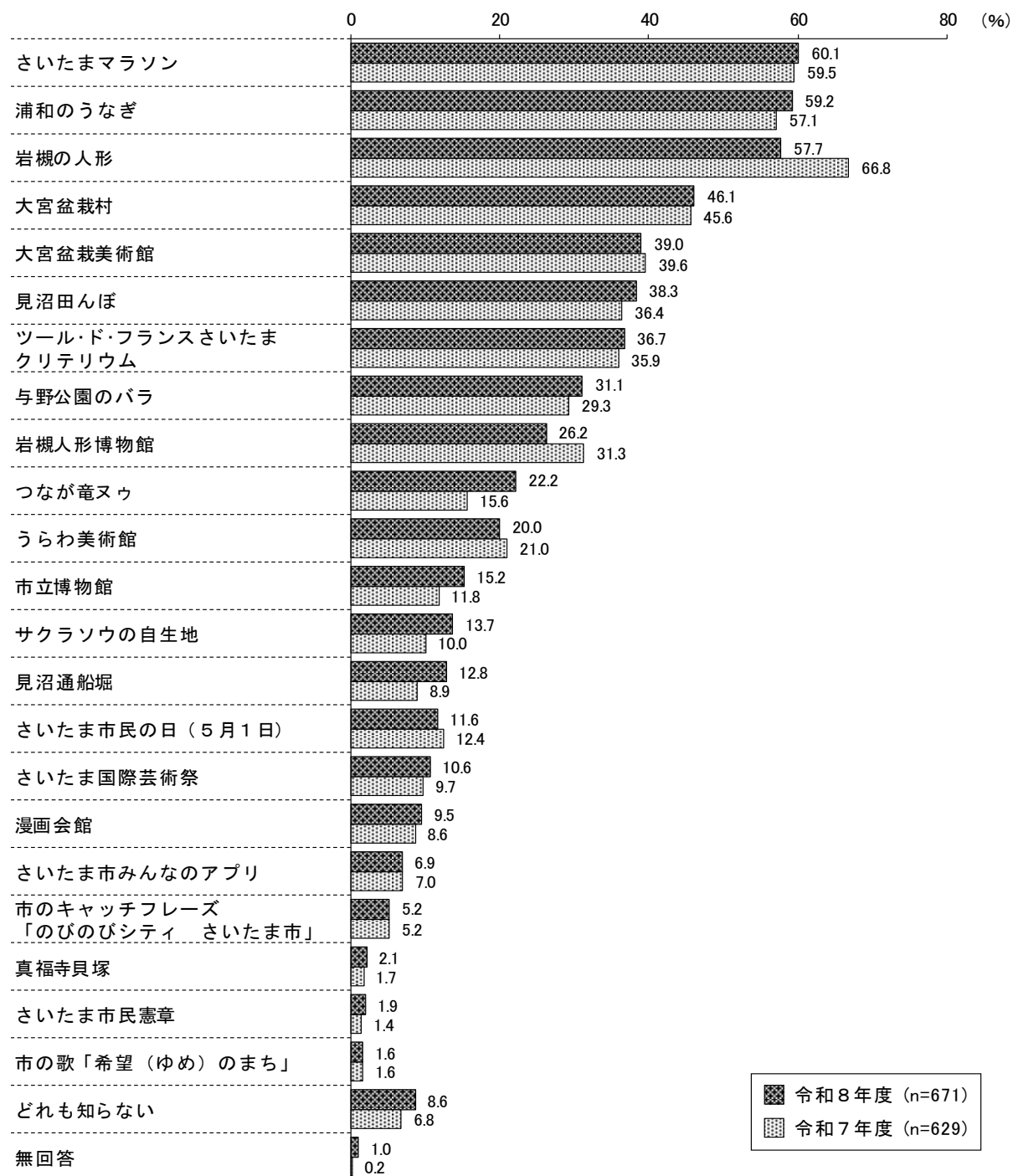
(2) あなたは、「さいたま市」が今後いっそう魅力的な都市になるためには、将来どのような方向へ発展するとよいと思いますか。(〇は3つまで)



「子育てのしやすいまち」が30.6%で最も高く、「災害に強く、治安のよいまち」(29.7%)、「居住・生活環境のよいまち」(22.2%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「災害に強く、治安のよいまち」が3.2ポイント、「居住・生活環境のよいまち」と「国際的なまち」が3.1ポイント減少した。

問2 さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

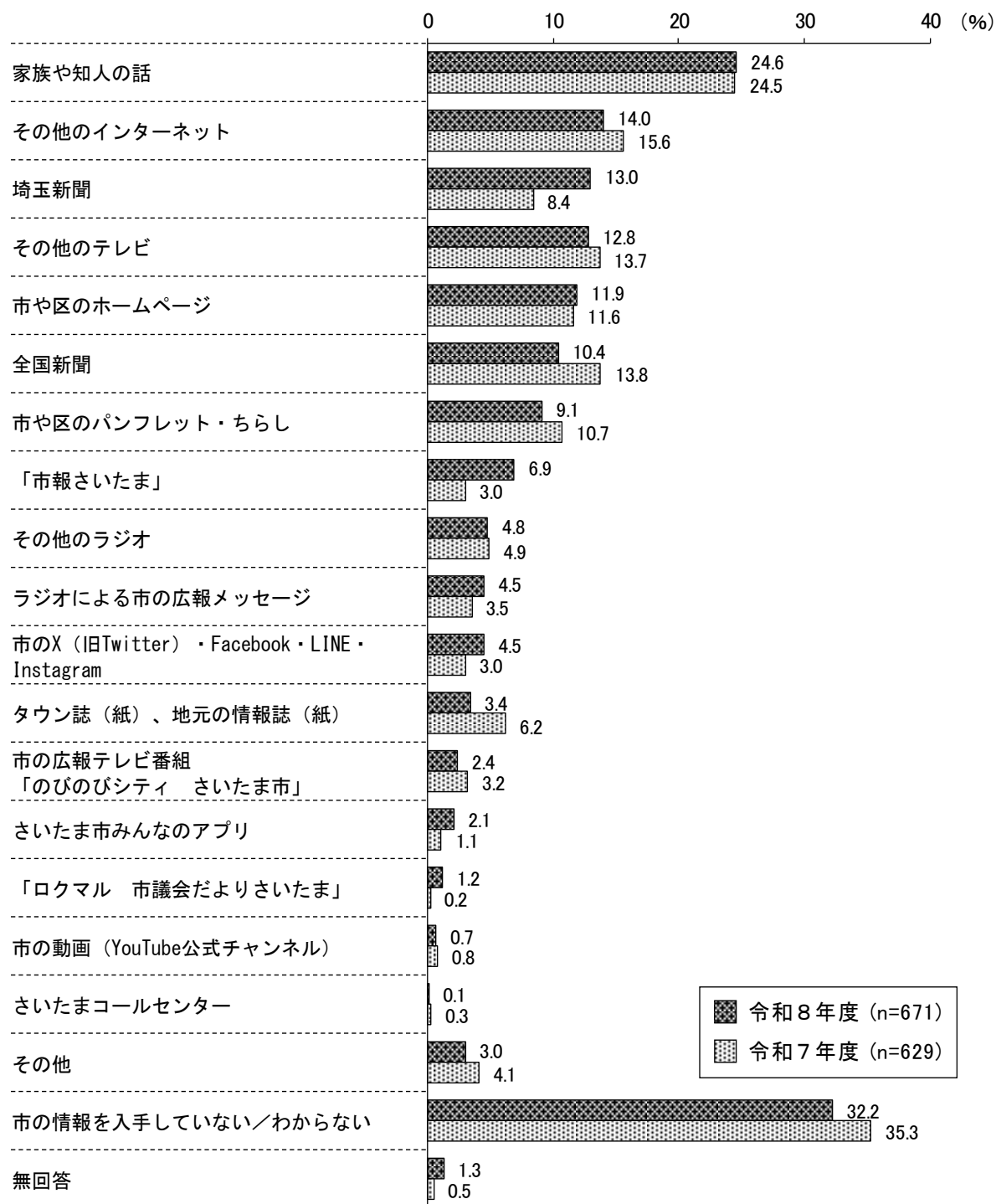


「さいたまマラソン」が60.1%で最も高く、「浦和のうなぎ」(59.2%)、「岩槻の人形」(57.7%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「岩槻の人形」が9.1ポイント、「岩槻人形博物館」が5.1ポイント減少した一方、「つなが竜ヌウ」が6.6ポイント、「見沼通船堀」が3.9ポイント、「サクラソウの自生地」が3.7ポイント増加した。

問3 あなたは、さいたま市が発信する情報をどのような方法で入手していますか。

(〇はいくつでも)



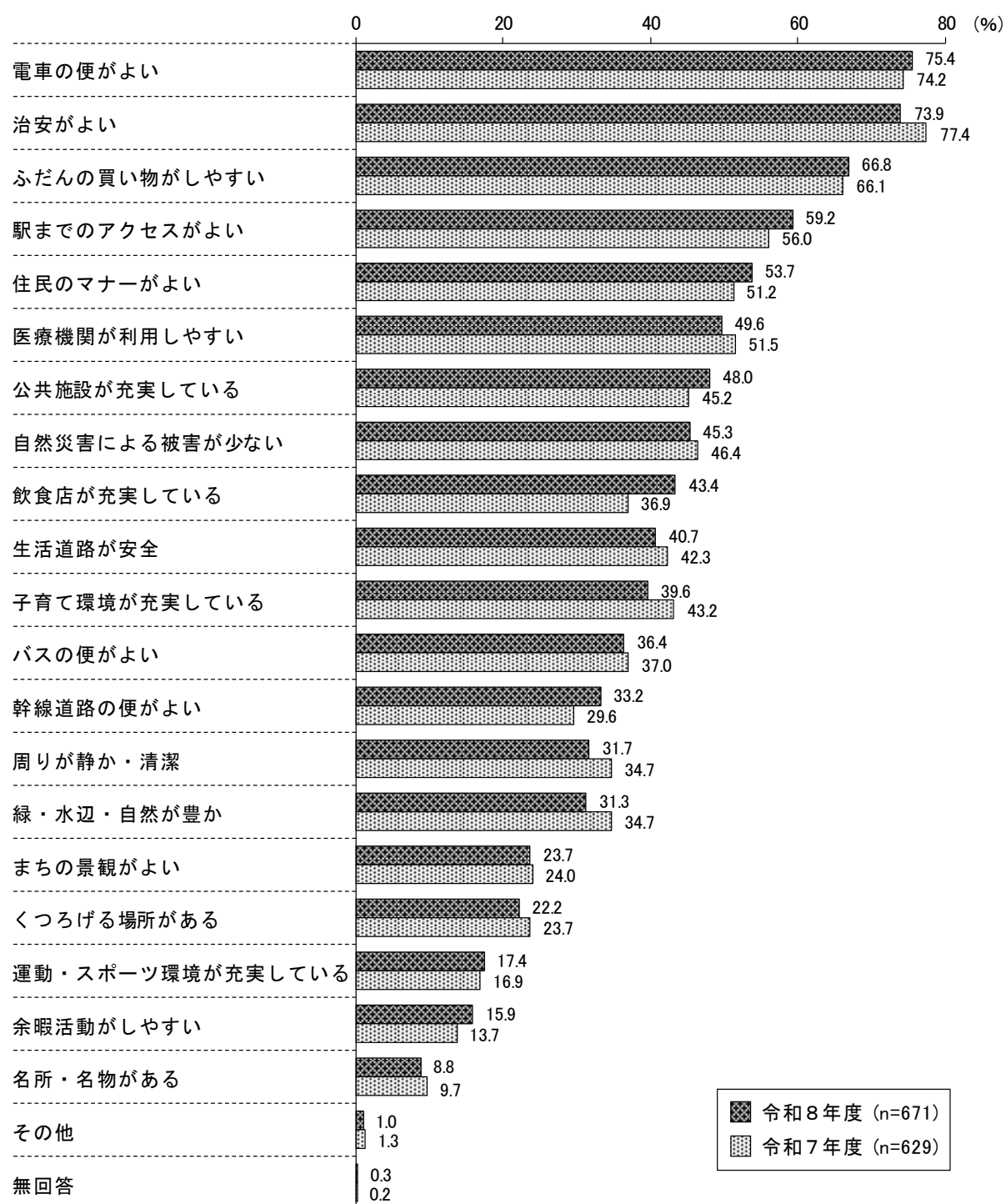
「家族や知人の話」が24.6%で最も高く、「その他のインターネット」(14.0%)、「埼玉新聞」(13.0%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「埼玉新聞」が4.6ポイント、「市報さいたま」が3.9ポイント増加した一方、「全国新聞」が3.4ポイント減少した。

問4 住みやすいまちの条件と、それに対するさいたま市の評価について質問します。

(1) あなたにとって、「住みやすいまち」とは、どのようなまちですか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

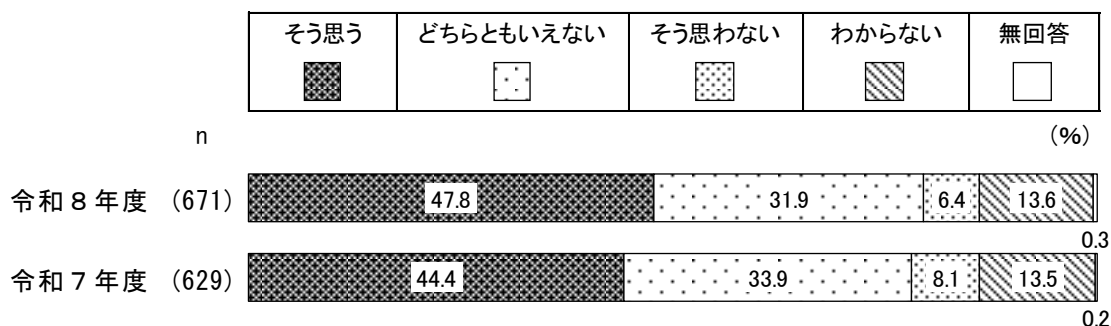


「電車の便がよい」が 75.4%で最も高く、「治安がよい」(73.9%)、「ふだんの買い物がしやすい」(66.8%)が続いた。

令和7年度の調査結果と比較すると、「飲食店が充実している」が 6.5 ポイント増加した。

問4 住みやすいまちの条件と、それに対するさいたま市の評価について質問します。

(2) あなたは、さいたま市は「住みやすいまち」だと思いますか。(○は1つ)

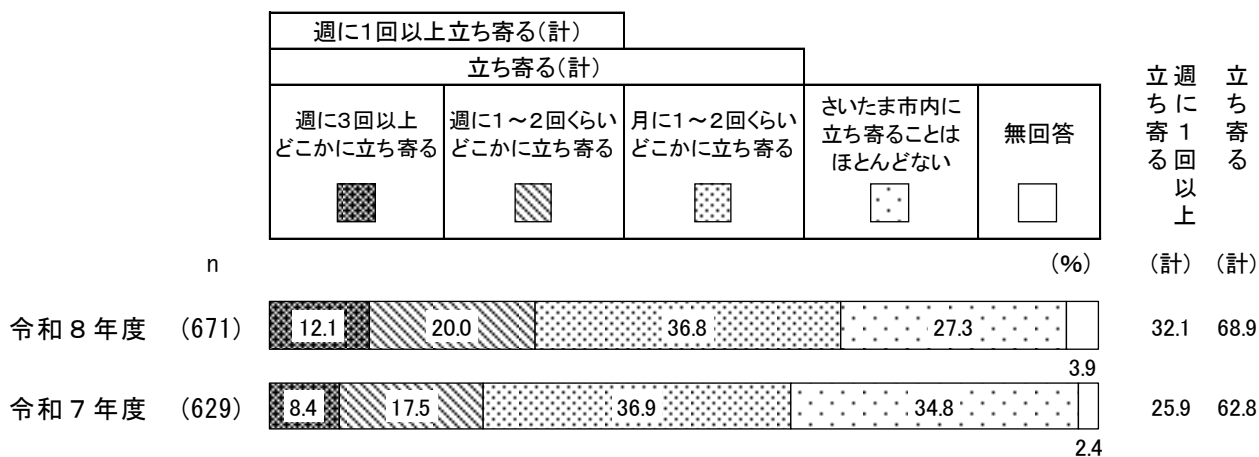


「そう思う」が47.8%で、「そう思わない」(6.4%)を上回った。

令和7年度の調査結果と比較すると、「そう思う」が3.4ポイント増加した。

(2) 市内での活動

問5 あなたは、お仕事が終わったあと、食事や買い物などでさいたま市内のどこかに立ち寄ることがありますか。(○は1つ)

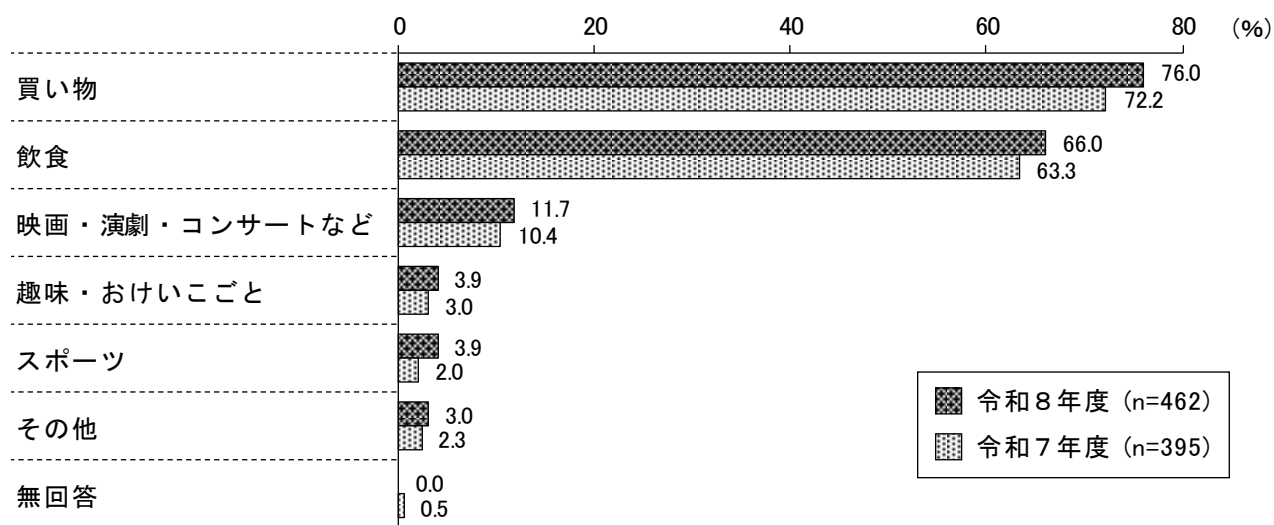


「週に3回以上どこかに立ち寄る」(12.1%)と「週に1~2回くらいどこかに立ち寄る」(20.0%)を合わせた『週に1回以上立ち寄る(計)』は、32.1%であった。さらに「月に1~2回くらいどこかに立ち寄る」(36.8%)を合わせた『立ち寄る(計)』は、68.9%であった。

令和7年度の調査結果と比較すると、『週に1回以上立ち寄る(計)』は6.2ポイント増加した。

(問5で「週に3回以上どこかに立ち寄る」「週に1～2回くらいどこかに立ち寄る」「月に1～2回くらいどこかに立ち寄る」と答えた方に)

問5-1 どのような目的で市内に立ち寄りますか。(〇はいくつでも)

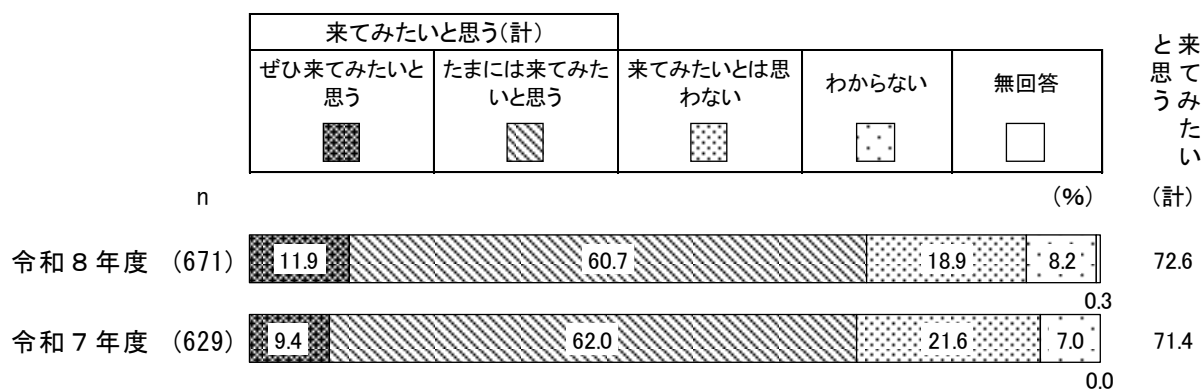


「買い物」(76.0%)と「飲食」(66.0%)が高かった。

令和7年度の調査結果と比較すると、「買い物」が3.8ポイント増加した。

問6 あなたは、仕事が休みの日に、買い物や遊びで、さいたま市に来てみたいと思いますか。

(〇は1つ)



「ぜひ来てみたいと思う」(11.9%)と「たまには来てみたいと思う」(60.7%)を合わせた『来てみたいと思う(計)』は、72.6%であった。

令和7年度の調査結果と、おおむね同じであった。

〔このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、264 万円です。〕